

令和6年度 高島市立学校 学校評価

マキノ東小学校		1
マキノ西小学校		2
マキノ南小学校		3
今津東小学校		4
今津北小学校		5
朽木東小学校		6
朽木西小学校		7
安曇小学校		8
青柳小学校		9
本庄小学校		10
高島小学校		11
新旭南小学校		12
新旭北小学校		13
マキノ中学校		14
今津中学校		15
朽木中学校		16
安曇川中学校		17
高島中学校		18
湖西中学校		19

高島市立マキノ西小学校

4段階評価(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

(様式1)

令和6年度 学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ南小学校

学校 教育 目標 「笑顔あふれ つながり やり遂げる 南小の子ども」 〈めざす子ども像〉 ○自分を表現する子 ○学び合う子 ○挑戦する子 〈めざす学校像〉 ○明るく元氣な学校 ○温かく楽しい学校 ○進んでよく学ぶ学校 〈めざす教師像〉 ○明るく笑顔あふれる教師 ○地域とともに歩む教師 ○学び続け、高まる教師	昨年度 の評価 概要 ○地域の方との良好な関係づくりの成果もあって、学校地域連携カリキュラムをうまく進めることができていた。南小の地域資源を生かした田舎環境登山は、南小ならではの取組で、地域の方の参加もあってよかった。 ○小規模校のよきを生かし、自然環境も生かした体験活動を取り入れ、おおらかで、やさしく、たのしいマキノの子の育成を期待する。 ○子ども同士で成長していく部分が多い。少数数であるのでどうしても大人の手が入りやすくなるが、サポートする部分と子どもに任せる部分を意識して教育活動に取り組む必要がある。 ○学校の役割は「学力」「コミュニケーション力」を高めることとし、家庭や地域の役割は「善悪の判断」「基本的な生活習慣」「社会生活に必要な常識」を身につけることと担担できればよい。家庭がもっとの学校である。学校と地域との更なる連携を期待する。 ○学校教職に準ずる職員数を見据えて、限られたメンバーでできることを再検討し、何かを増やすなら、他を減らすなど、働き改革を意識しながら業務を精選する。先生が笑顔で数値に立つことが一番である。	中期的 目標 ○学校地域連携カリキュラムの確実な遂行 ○家庭での自主学習の定着 ○いじめ、不登校、体罰のない安全・安心な学校づくり ○教職員の授業力、課題対応力の向上
--	---	--

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定	改善方策	学校関係者評価
笑顔あふれ(心アツク) ○道徳・人権教育の充実 考え、議論する道徳科の授業づくり 多様な経験を積み重ね、まわりを思いやる心を育成 ○いじめのない学校づくり チームで取り組む生徒指導と、早期発見、迅速な初め対応の徹底 自分も友達も大切にできる人間関係の基盤づくり ○キャリア教育の推進 自己肯定感を育み、安心して挑戦できる環境づくり 多様な人と交流のある活動の充実 ○特別支援教育の推進 教育のユニバーサルデザイン化 仲間がけ入れられる指導 ○凡事徹底の学校風土の構築 出たり前であることを当たり前 風物もののよい挨拶・送迎、時間厳守、身の回りの整理整頓・掃除	道徳・人権教育の充実 ※友達や相手を思いやる心が育つ(児童・保護者評価)90%以上 ※考え、議論する道徳教育を推進(教職員評価)90%以上 いじめのない学校づくり ※学校が楽しい(児童・保護者評価)90%以上 ※いじめの防止・早期発見・チームで迅速対応(教職員評価)90%以上 個の自立とキャリア教育の推進 ※自己肯定感「今の自分が好きだ」(児童評価)90%以上 ※係・委員等で工夫した特別活動を推進(教職員評価)90%以上 個に配慮した特別支援教育の推進 ※個人に合った特別支援(児童・保護者評価)90%以上 ※一人ひとりの個性を大切にしたい取組推進(教職員評価)90%以上 凡事徹底の学校風土の構築 ※しっかりあいさつができてくる(児童・保護者評価)90%以上 ※学校のまわりを守る(児童・保護者評価)90%以上	※「友達がよくない気持ちにならないように考えて行動している」(●児童100%)・相手を思いやる心で友達と接する」(●保護者98%) ※「考え、議論する道徳教育を推進しようとしている」(▲教職員63%) ※「学校へ行くことが楽しいと感じる」(●児童94%)・●保護者92%) ※「先生は、いじめが嫌がらせがあったときは助けようとしている」(●児童98%)「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいると感じる」(●保護者98%)「いじめのない学校づくりになりつめていっている」(●教職員100%) ※「自分のことが好きである」(▲児童82%) ※「みんなで協力して何かをやり遂げる等、集団としての力を高める取組を行っている」(●教職員100%) ※「先生は、自分の話をしっかり聞いてくれる」(●児童98%)・「学校は、一人ひとりの子を理解し、大切にしている」(●保護者96%) ※「子ども一人ひとりの個性を理解し、適切に指導・支援している」(▲教職員88%) ※「友達や先生、近所の人に進んであいさつをしている」(●児童98%)・「お子さんは、返事やあいさつができています」(●保護者94%) ※「学校の決まりを守って生活している」(●児童98%)・「お子さんは、決まりやルールを守って行動している」(●保護者92%)	B A B A A	「考え、議論する道徳」は、研究指定時と比較して低下、互いに授業を見る・語る場を設け、今後も全員参加型の授業を構築していく。 各週定例の情報共有では、子どもの心配な面だけでなく、称賛すべき行動も紹介し合い、褒める・認める場を創出する。 児童評価は数年間にわたり向上傾向にある。「すべて」の取組を継続し、学年を超えた調い合い、その紹介の場を拡げていく。 教科担任制による授業など、担任外教員が見た児童の様子をより多く情報共有に努め、個性を伸ばせる環境をつくる。 人数がゆえに馴れ馴れしくなってしまうが、学習中は「○○さん」と友達のことを表現するなど、時と場合に応じた言葉遣い・礼儀が身につくよう日常的な指導に努める。	○全員参加の笑顔あふれる授業風景から先生活と子どもの関係の良さを感じた。今後も子どもの本音を出させる雰囲気づくりに努めてほしい。 ○「すべて」の継続やその紹介の工夫により、支持の風土が作られ、自尊感情の高まりが評価結果にも表れている。持続に期待する。 ○登下校時に上学年児童が下学年児童に見える思いやりを感じ、地域の人々にもしっかりとあいさつができています。地域住民も小学生に好感を持っている。
学び深(学力アップ) ○「協働的な学び」の実現 ○全員参加の授業づくり 魅力ある学習環境・導入・発問の工夫等の教師のしかり考えを上げ、深めるための対応 ベンチャーグループでの主体的活動の充実・異学年交流学習 児童同士、教師や地域の人々につながる授業の創造 ○進・中との連携 小・中一貫教育の深化 小・中連携の継続と推進 ○タブレット端末の効果的な活用 主体的に学ぶ態度の育成 ○基礎基本の定着 個に応じたきめ細やかな指導・自分を表現する取組 ○学習習慣の確立 学習態度、学習習慣の確立・授業とつながる家庭学習	授業改善・授業への参加意欲 ※授業の理解度・満足度(児童・保護者評価)90%以上 ※授業改善・全員参加の授業推進(教職員評価)90%以上 学力の定着 ※学習内容を理解している児童(児童・保護者・教職員評価)80%以上 ※全国学力学習状況調査の無回答率5%未満 学習習慣の確立 ※学習内容を理解している児童(児童・保護者・教職員評価)80%以上 ※ジャンプアップ・学び方マスターの取組(児童・保護者評価)90%以上 主体的に学ぶ力の向上 ※「聞く・話す・自分を表現する」学習に心がける(教職員評価)90%以上 ※タブレット端末を効果的に使っている(児童・保護者評価)90%以上	※「教室では、自分の考えを発表している」(▲児童86%)・「お子さんは、教室で自分の考えや意見を発表しているようだ」(▲保護者80%) ※「授業改善を工夫し、全員参加の授業を心がけている」(▲教職員75%) ※「国語を理解している」(●児童90%)・●保護者88%)・●教職員100%) ※「算数を理解している」(●児童90%)・●保護者86%)・●教職員88%) ※全国学力学習状況調査の無回答率は、●0%(全ての問になんらかの回答をしている) ※「進んで家庭学習をしている」(▲児童76%)・「お子さんは、家庭学習の習慣が身についている」(▲保護者76%) ※「ジャンプアップ・学び方マスターにしっかり取り組んでいる」(●児童94%)・「お子さんは、ジャンプアップ・学び方マスター・通問の効果が出ている」(▲保護者72%) ※「進んで話す・聞く・自分を表現する授業を心がけている」(▲教職員78%) ※「タブレット端末は、勉強をするためにとても便利だ」(●児童100%)・「お子さんは、タブレット端末を学習に効果的に使っている」(▲保護者81%)「児童は約束を守って学年に応じてタブレット端末を使いこなしている」(●教職員100%)	B A B B	発表にこだわらずにグループ交流やタブレット端末の発信など、児童・保護者と「発表」の視点を共有し、年度当初に共有した姿に近づいたか検証する場を創出する。 個別最適な学びができてくる場を整える。5年生が「教育研究所」と連携して取り組んだ「単元内自由選択学習」等の良さを取り入れた学びの場の工夫にチャレンジする。 与えられた学習から、自分で考えて設定する学習へ、学年に応じた自主学習習慣を提示するなど、家庭学習の取り組み方にも変化を加えていく。 年度当初の校内研究会において「めざす授業像」を確認し、どの子どもが反応して授業に参加できる授業となるよう有効となるタブレット端末の利用を推進する。	○文章に親しめる手立てが必要である。図書館との連携による貸出に興味を持っていることから、学校でも家庭でも本に親しめる場づくりを進めることが期待される。評価項目にも読書に関する項目を付加する。 ○家庭学習は、家庭の力が大きい。学校の取組として知的好奇心をくすぐるような家庭学習への関与など、工夫が必要である。 ○タブレット端末を使うことが目的化した授業を減らし必要に迫られて利用している様子が見られる。主体的に利便性を感じるような活用方法を継続してほしい。
健やかに(元氣アップ) ○運動に親しみ場づくり・健康な体づくり 有意な運動との出会い・魅力ある体育の授業 基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん) 体力向上への意識づけ・たてわり遊び 健康教育・家庭と連携した食育活動 ○防災・防犯への危機意識の保持 安全教育の充実・自分の命を守る意識向上 有事の判断力、行動力の育成 ○やり切る姿勢づくり がんばりや努力を認め合う意欲あふれる チャンスする態度・ほめる喜び・取り組む態度	運動好きの児童の育成 ※進んで運動、あきらめずにやり遂げる(児童・保護者評価)90%以上 ※体力向上に向けた体育科・外遊びの実践(教職員評価)90%以上 食育等健康教育の推進 ※食育の充実(児童・保護者評価)90%以上 ※給食指導や健康に関する適切な指導(教職員評価)90%以上 安全教育の充実 ※不審者や自然災害の緊急時の対応(児童・保護者評価)90%以上 ※危機管理意識を高めた安全指導(教職員評価)90%以上	※「外で走ったり、走んで運動したりしている」(●児童90%)「お子さんは、走んで体を動かそうとしている」(▲保護者76%)「最後まであきらめずにがんばっている」(●児童94%)「お子さんは、あきらめずに最後までやり抜くことができています」(▲保護者83%) ※「体力の向上のための適切な指導・取組をしている」(▲教職員100%) ※「健康に食を食べて、きらいな物であっても食べようとしている」(▲児童88%)「お子さんは、3食をしっかり食べ、飽きらないように心がけている」(▲保護者80%) ※「各教科や給食の時間を利用して、健康の保持増進や食に関する指導をしている」(●教職員100%) ※「不審者に出った時や地震・火・火事の際にどうしたらよいかわかっている」(●児童96%)「お子さんは、地震・火災・不審者に出た時の対応を知っている」(●保護者92%) ※「危機管理意識を高め、子どもの安全について適切な指導をしている」(●教職員100%)	B B A	体育等には「あそびのひろば」を開催、中学年が先導して企画し、学年を超えて体を動かす場を設ける。体育の宿題を定期的に取り入れる。 家庭との連携が必要であり、各家庭に発達できる機会を増やす。食育指導の場には積極的に参加・参観してもらう体制を整える。	○学校では運動をするが、家庭では運動しないという実情が見られる。以前に外遊びをしていた時間を、現代ではどのように使っているのか検証する必要がある。 ○達成感を感じようようなステップ型の運動の学習を有効である。運動会の種目に一輪車を運ぶなど、ブームによる運動への興味の高まりに期待したい。
地域とともにある学校 ○地域と学校が一体になって子どもを育てる意識の醸成 ・地域の人と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育て ・子どもたちと地域の人がつながる教育活動の推進(学校地域連携カリキュラムの充実) 国小中一貫教育の推進 ○15歳の夢を見通した教育活動の創造 ○「自立と共生」の力をもって生き抜く子どもの育成	学校教育目標の共有 ※めざす子ども像、学校像の共有(保護者評価)90%以上 ※学校教育目標に向けた取組に心がける(教職員評価)90%以上 地域との協働による教育活動の充実 ※地域住民を巻き込む教育活動(学期に1回以上) ※地域住民が入りやすい学校づくり(教職員評価)90%以上 国小中一貫教育の推進 ※地域間との交流・参観を教職員各自が学期に1回以上にかかわる ※小・中・高・小・中・高の合同研究が充実(教職員評価)90%以上 ※小・中・高・小・中・高の合同事業が効果的である。 (教職員評価)100%	※「外で走ったり、走んで運動したりしている」(●児童90%)「お子さんは、走んで体を動かそうとしている」(▲保護者76%)「最後まであきらめずにがんばっている」(●児童94%)「お子さんは、あきらめずに最後までやり抜くことができています」(▲保護者83%) ※「体力の向上のための適切な指導・取組をしている」(▲教職員100%) ※「健康に食を食べて、きらいな物であっても食べようとしている」(▲児童88%)「お子さんは、3食をしっかり食べ、飽きらないように心がけている」(▲保護者80%) ※「各教科や給食の時間を利用して、健康の保持増進や食に関する指導をしている」(●教職員100%) ※「不審者に出った時や地震・火・火事の際にどうしたらよいかわかっている」(●児童96%)「お子さんは、地震・火災・不審者に出た時の対応を知っている」(●保護者92%) ※「危機管理意識を高め、子どもの安全について適切な指導をしている」(●教職員100%) ※「学校は、自給自足学校、自給自足の生活を大切にしている」(●保護者96%) ※「目指す学校像、目指す子ども像を、保護者、地域と共有するよう努めている」(●教職員100%) ※「地域との協働を意識し、地域協働を学期に1回は取り組んでいる」(●教職員100%) ※「南小学校は、地域住民がかりやすい学校になっている」(●教職員100%) ※「マキノ/地域の他機関との交流や参観を学期に1回は行っている」(●教職員100%) ※「マキノ/地区での学校を超えた合同研究が充実している」(●教職員100%) ※「マキノ/地区の校間の合同事業が効果的である」(▲教職員75%)	A A A A A	学校統合に向けた学校教育の在り方について発信し、保護者や地域住民の思いを反映できる機会を生み出す。 子どもたちの遊びの場として空き教室を開放し、そこへ地域住民がかわかるといふ場へと移行させていく。 これまでの関係性を維持しながら、小学校の統合に向けてこの間も中学校の児童も一緒に考えて、新しい学校に向けてより関係性を密にしていける。 新小学校開校を見据え、内閣をスタートができるよう、合同事業を通して各校のよきを築いて持続可能な活動を検証し、精査していく場を設ける。	○「えがけ120」はとてもわかりやすく、どんな学校にしたいのか子どもたちにもわかり、各種のおよびでもそのことが伝わるように工夫しているのがわかる。 ○学校支援がランチャードの連携にSNSを使うシステムは南小の強みである。今後もその良さを継続できるように、開校に向けて先導する立場としていきたい。 ○3か所や国小・小中の合同事業については、職員だけでなく、子どもたちがどう感じたかを大切に考え、その感想を成長、充実、学校の関係性、児童の評価についての数値目標を設定する必要がある。

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
○創立150周年記念事業に児童のアイデアを生かし、児童主体のクイズラリーを取り入れたことは、地域住民・卒業生に向けた発信として有効だった。地域と学校がつながる良い機会となった。 ○職員数の減少をサポートする努力がある。ただし、子どもをたくましく育てるという面を考えると、あえて大人が不足しない場面を設定する必要も感じる。たてわり遠足のように児童自ら企画する視点が大変で、与えられたことを楽しむだけでなく、自分たちで生み出したことを「面白がる」ことが人権形成には不可欠である。 ○マキノで育った子はマキノが好きな傾向がある。隔年で内容を変えるたてわり遠足でマキノの地域資源を生かしながら郷土の良さを感じることが有意義で、上学年のリーダー性・責任感を養える事業は、学校統合に向けてこの視点を大切にできるよう南小がリ・デザインを発展してほしい。 ○数値目標や指標が学校からの一方通行的なイメージがあるので関係者評価がやりやすい面がある。年度当初に指標・数値目標を知りたい。	評	B	○目先のことだけでなく長いスパンで子どもの将来を見据えて「たくましい」の育成に向けて、今後が必要か」の視点を大切に活動を展開していけるよう事業を計画していく。 ○令和10年の開校に向けて、ますます3つの小学校の結びつきを強めなければならないが、3校合同で実施する事業の意義を職員全体で再確認しながら進めて行きたい。 ○3小のカリキュラムを客観的に考え、何を新小学校に残していくかを検証・精査を始める時期となる。「たくましい子を育てる」「ふるさとマキノ」を愛し続ける子を育てる。ことを念頭に、学校のなかだけでなく、様々な機関や地域の人々と、学校が持っているものを積極的に活用する機会を生み出す。 ○年度当初の学校運営協議会において、学校評価における指標や数値目標を協議・確認することで、今までもそれぞれの視点を大切にしながら学校運営を行う職員の姿が生まれ、委員も学校運営に関わりやすくなる。

4段階評定(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

(様式1)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津東小学校

学校 教育 目標	ふるさとを愛し、豊かな心を育み、 自ら学び挑戦する子の育成	昨 年 度 の 評 価 概 要	○ICT活用は大切だが、自分の言葉で表現することも大切。自分の言葉で表現する子の育成をすべき。タブレット端末の使用状況についても確認を ○あいさつなどの指導は、根気強く続けることが大事 ○大人の目の届かないところは、子どもたち同士の中では呼び捨てやひどい言葉遣いになっていることがある。 ○不登校は全国的にも増えている。今後、一人ひとりをみて対応をすべき ○食べること・食べ物に対する大切さ、思いやりなどを育成する食育指導を ○地域の力を学校へ向ける取組にしていかなければいけない。 ○小中連携して系統立てた学習内容・学習ルールを確立していくことが大事	中 期 的 目 標	＜中期的目標＞ ○言語能力の向上を図り、正しい用語による論理的な表現力を育成 ○成就感や達成感を高める行事の工夫と連帯感や充実感を深める学級づくり ○すこやかタイムの定着と保健安全指導の工夫 ○体験的学習、地域学習のさらなる推進
----------------	----------------------------------	--------------------------------------	--	-----------------------	--

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
(かんがえ) 学びの楽しさを 知り、自ら学びに 向かう子の育成	「勉強の内容がよくわかる」児童の評価90%以上 「授業中、自分の考えをよく発表している」児童の評価70%以上	「国語や算数の授業がよくわかる」の児童評価は92%で目標達成。 対して「授業では自分の意見をよく発表している」の児童評価は62%で目標にしていた70%を下回った。	B	B	・6年生との熟読の際には、6年生が発表でタブレット端末を活用するなどICT活用が進んでいることを改めて実感した。 数年前と比べてタブレット端末を使った授業が円滑であると思う。 ・タブレット端末を活用した発表力を維持したまま、さらに自分の言葉で発表できるプレゼンテーション力を育むように、先生方には授業を工夫してほしい。また、活字にも親しむ取組を進めてほしい。 ・今年度から配置された高学年算数専科の効果も評価できるとよいと思う。
	「ICTを効果的に活用した授業に取り組んでいる」教員の割合100%	「タブレット端末などICT機器を活用して必要な情報を探したり発表したりできるように指導しましたか。」の教員の割合は92%であった。担任や授業を担当している教員に限ると100%なので、ほぼ目標を達成できたと言える。	A		
	「読み解く力」を意識した授業づくりに努め、グループ学習を効果的に実施し、交流を深める授業を仕組む。	「読み解く力」の視点を意識した授業に努められましたか。」の教員の割合は77%であった。グループ学習と積極的に取り組む、子どもの意見をつなぐ交流を意識した授業は多かったが、「読み解く力」の視点はまだ到達しなかったようだ。	B		
(おもいやり) 自他を愛する 豊かな心の育成	「学校に来るのが楽しい」の児童評価及び保護者評価ともに85%以上	「学校へ来るのが楽しい」の児童評価は88%、「おさんは、楽しく学校に通っている」の保護者評価92%で、児童は昨年比+2%、保護者は昨年比+1%で、両者とも昨年をやや下回ったが、ほぼ同様の結果と言える。	A	B	・いじめや不登校対応について、児童個々のニーズに応じた取組を進めていて先生方の努力を感じる。 ・落ち着いた校内の雰囲気からも、児童の先生方に対する信頼がアンケートの結果に表れているようだ。 ・人権に関する知識は育まれているが、意味も分からず人を傷つける言葉（ネットの影響があるかもしれない）が使われている時があるのが気になる。 ・いじめについては現状に満足せず、いつも敏感であってほしい。
	「児童が人権を尊重し、温かい人間関係を育成するよう努めましたか」の教員の割合80%以上	「児童が人権を尊重し、温かい人間関係を育成するよう努めましたか。」の教員の割合は100%で、児童の「友だちのことを考えて行動している」の評価96%にもつながったと考える。	A		
	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価80%以上	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価は61%（前年比+1%）で、前年とはほぼ同じ結果であった。わからないも32%（前年比+2%）で同様であった。児童の「先生は、いじめやいじめがせがかったときは解決してくれる。」の評価96%とは乖離している。	B		
(たくましい) 体力や気力、 生きる力の育成	「外で遊んだり、進んで運動したりしている」の児童評価80%以上	「外で遊んだり、進んで運動したりしている。」の児童評価は83%で、目標は達成できた。	A	A	・児童会で外遊びを始めていたことも一定の効果をもたらしたので、引き続き教員からだけでなく児童会からも発信する。 ・学校周辺にいと、児童が運動場で遊んでいる声が聞こえてくるので、元気づけ体を動かしていることがうかがえる。 ・学校にいるときは外で遊びたい児童が多いと思うが、生活リズムの保護者評価が低いのは、児童の遊びが外ではなくゲームやスマホ等に変化しているからではないかと思われる。 ・たてわり活動は、リーダー養成はもとより、どの学年でも他者の話に素直に耳を傾けるなどの効果が期待できるので継続して取り組んでほしい。
	「早寝・早起き・朝ごはん」のリズムができていている児童評価及び保護者評価ともに80%以上	児童の「早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムができています。」の評価は80%で、保護者の「おさんは、早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムができています。」は77%で、保護者評価がわずかに目標に達しなかった。	B		
	「異なる学年の友だちとも仲良く活動できる」児童の割合80%以上	「異なる学年の友だちとも仲良く活動できる」の児童評価は87%（前年比+1%）で、ほぼ昨年同様の結果となった。6年生の掃除リーダーの取組や児童会の秋祭りやたてわり遊びの取組がよい結果をもたらしていると考えられる。	A		
地域とともにある 学校	学校・地域連携カリキュラムを見直し、はなまる広場や自治協との連携を図った実践を行う。	「学校地域連携カリキュラムが地域との連携・児童の主体的な学びにつながりましたか。」の教員の割合は77%で評価が高いとは言えない。はなまる広場や自治協とは連携して取り組むことができていたが、児童主体の取組までには高まらなかった。	A	A	・地域住民が学校に足を運び、児童とふれあう機会が多く、まさに「地域とともにある学校」になっている。 ・学校運営協議会の機会に、教職員とテーマに沿って熟読をしたり、6年生の意見表明の場に参加したりするなど、校内での学校運営協議会の認知が広まったと思う。 ・地域連携は始まったばかりで、教職員の意識も地域の行動もこれからだと思う。
	学校運営協議会の熟読を経た意見をもとに、全委員が執行者として学校運営にかかわりを持てるようにする。	学校運営協議会では、教職員と「教員の働き方改革と地域連携」をテーマに熟読したり、6年生児童と意見交流の場を設けたりした。教職員とは学校行事を中心に活発に議論した。今後の学校行事に反映することになった。また、6年生との意見交流は、6年生の意見表明の場としてもよい機会となった。	A		
小中一貫教育の推進	小中一貫教育標準カリキュラムを活かした授業づくりについて、中学校区教職員全員で取組を進める。	小中一貫教育の日は、今津中学校区的全教職員が一堂に会しテーマ別に議論したり、研究を進めたりすることができた。また、小学校児童や中学校生徒の学習の様子などもお互いに参観することができた。	A	A	・子ども数減の中で、広域での学校連携は有効であると思う。 ・人事異動により転入してきた教職員が戸惑うことのないよう、無理のない取組にしてほしい。「働き方改革」に逆行しないことも大事である。
	学校・地域連携カリキュラムの実践の中で小中学校の児童生徒の交流の促進を図る。	小から中への滑らかな接続のために、方法や時期を工夫して、随時記録を録画、中学校での部活体験や「ようこそ先輩事業」を行った。また、学校地域連携カリキュラムにある小中生合同の環境保全の取組も行うことができた。	A		

学校関係者評価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・全体として良い評価であると思う。教育の評価は難しいし、日々変化する現状に対応する困難さもある中でB以上の評価ばかりなのは素晴らしい。 ・先生方の授業研究・改善の成果が、児童の意欲ある学びの姿に表れてきている。 ・基礎学力のさらなる定着に向けて、学年の発達段階に合わせた学習規律や自学・読書の推進など細部からのアプローチが図れるとよい。 ・学級、学年、児童会など、いくつかの単位を踏んだ人権の取組が少しずつ積み上げとなり、心の育ちに生かされている。日常の学校生活の場でも、友達に思いやりのある言葉がけや気持ちのよいあいさつができるよう根気よく指導を続けていただきたい。 ・地域のよさの伝達、学力生活力向上の支援等にたくさんボランティアの方々関わっているが、長く関わってもらうためにも未発掘の部分に切り込む動きが必要と感じる。 ・教職員や児童との熟読は、学連協委員としてもよい機会となった。今後も継続してほしい。	A	・タブレット端末の効果的な活用については今後も研究を深め、児童には学習用具の一つのツールとして授業や家庭学習で積極的に使わせたい。但し、使うことを目的化せずに、学習によっては従来通り手で書かせる機会も大切に。 ・学校図書館を活用し、読書活動の充実を図り活字に親しむ機会を増やす。 ・単元内自由進度学習等児童主体の学びの姿を検証しながら、高学年算数専科の効果も評価する機会を持つ。 ・いじめ等生徒指導事案については今まで通り生徒指導主任を中心に組織的に対応し、特にいじめについては早期発見と迅速な初期対応を心がける。 ・地域や学校との取組について、保護者や地域へも参観時等の機会を利用したり、HPやおたより等でお知らせしたりして周知する。 ・良い生活リズムの習慣化、ゲームやスマホ等の使用制限、外遊びや運動の推奨について、保護者にもPTAと連携して研修の機会を持つ。 ・はなまる広場の人材拡充、自治協との協働活動など、地域との連携強化をさらに進める。 ・中学校区での道徳教育の研究発表に向けて、北小や中学校とともに研究を推進する。学習規律や授業の進め方等についても2校と連携しながら進める。 ・学連協と教職員との熟読や、児童との話し合い（児童の意見表明の場）は継続して設定する。

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

(様式1)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津北小学校

学校 教育 目標	すすんで やさしく たくましく 人を思いやる豊かな心と自ら学ぶ意欲を持ち、ふるさとを愛する心身ともにたくましい子どもの育成	昨年度 の評価 概要	コロナ5類移行後、学校側の門戸は大きく広がってきたと評価できる。これからは、地域の人材も、学校の学習の中で、大いに活用していただき、児童の主体的な学びの場を作れるよう、さらなる関係の強化を期待する。 ・コロナ禍後、社会が変化していく中で、どのように学校と家庭が連携していくのか、課題は増えていくと思うが、一つ一つ取組を積み重ねているので、今年度の目標は達成できていると考える。	中期的 目標	・基礎基本の定着を図り、自分の考えや思いを表現につなげる。 ・行事や学習活動を通して成就感や自己存在感を深める学級づくり。 ・日頃から健康と体力を高めようとする意欲を育てる保健・安全指導の展開。 ・地域の特徴を知り、ふるさとを愛する心情の育成。
----------------	---	------------------	--	-----------	--

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
学びあう子の育成のための力点 ◎考えたことを話し合い、言葉を工夫して表現する学習活動の工夫 ◎主体的な学びにつながる、わかる授業の実践 ◎ICTの活用 ・興味関心を抱かせ、思考につながる資料や考え方の提示 ・情報機器を使った学習の工夫とまとも、発表機会の工夫とモラルの指導	・「授業が分かる」と回答する児童・・・80%以上 ・家庭学習時間の定着化・・・20分（1、2年生） 10分×学年（3年生以上） ・話し合いを取り入れた学習活動 主体的・対話的で、深い学びの実現に向け、単元のまとめ等で随時ペア学習やグループ学習を実施 ◎ICTを使った学習活動の充実 ・各教科の学習活動におけるタブレットの効果的な活用	2学期末で「国語・算数の勉強はよくわかります」と回答した児童92%、担任は10.0%が「わかる授業のために事前に取り組んだ」と回答した。保護者は85%が「学校でお子さんは学習はよくわかって」と答えている。 「家庭学習の時間は、学年の目標時間が達成できた」と回答する児童が77%[1年：100%、2年：91%、3年以上68%]（昨年全校86%）で高学年になるほどできる割合が増えている。保護者は59%で昨年度より向上しているが、今後も粘り強い取組が必要である。 「友達と話し合うことで考えが深まったり、広がったりした」と95%（昨年93%）の児童が回答している。コロナ5類後、話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりする活動が着実に進んだ。 タブレット端末は、各学級とも積極的に活用ができています。家庭にも持ち帰っている。家庭での利用のきまりを徹底するなどしてさらに適正な活用を促し、教員の研修も進めて有効的な授業での活用に努めている。	A C A B	外部研修の伝達講習を定期的に持ち、学校全体の指導力を高める。漢字プロ等朝学習の内容をさらに工夫し、基礎基本の徹底を図る。 従来のドリル形式とタブレット端末を活用した家庭学習も行い、内容の充実を図る。学級だより等でも保護者に啓発を図る。 タブレット端末を活用し全員の意見を提示することで、自分の意見を述べる場を持つ。学年に応じた話し合い活動がさらに活発化できるように指導する。 外部講師を招くなどして、情報モラル教育について、学年の実態に合わせて継続的な指導を徹底していく。	文字を書く機会が減り、基本を習得しかねている傾向がある。朝学習等での意識づけが必要。 学習意欲を養い、集中しやすい学習環境を継続してほしい。 家庭学習の中身を広くとらえる。（なわとびや鉄棒、読書、NHK for schoolなど）また、何らかの形で、毎日の学習時間を把握し、目標達成できる工夫が必要である。
◎いのち・人権を大切に ・「いのち」の大切さを全教科・領域を通じた指導 ・学級や縦割り活動における、好ましい人間関係づくり ◎いじめをなくそう ・日常生活の中で、「楽しい学校」について考えさせる。 ・人権集会を契機として自分たちからいじめをしない環境づくり	◎いのち・人権・思いやり ・やさしい言葉をかけられた経験 85%以上 ◎いじめのない学校づくり ・学校が楽しいと回答できる児童 90%以上 ◎いじめのない学校づくり ・場に合ったあいさつがしっかりとできる 85%以上	「ずっとなかよし集会」を2回実施した。「友達と仲よくすごしていますか。」「の問に児童の97%が「過している」と答えている。多くの児童は思いやりをもって過ごしている。嫌な思いををする児童に対しては迅速な対応と事後の見守りが必要と考え取り組んでいる。 「学校で楽しく過ごせているか。」に対して、児童は97%、保護者は95%が楽しく過ごしていると回答しているが、いじめの認知は数件ある。いじめアンケートの分析や事象に合わせた迅速な組織的対応、毎日の児童観察とその共有が必要である。 「元気にあいさつができていますか」は、児童は91%、保護者は70%となり、地域の方に対しても集団登下校時のあいさつができるよう継続して指導を行っている。	A B B	職員全員で児童全員を指導することを継続し、児童の呼び方や日ごろの言葉遣いなどを意識することで人権を尊重する環境をつくる。 いじめアンケートや教育相談を活用し、個々の思いを聞き取る。気になる児童には積極的に声かけをし関係性を深めていく。道徳の授業の工夫をする。 児童会を中心にあいさつ運動を継続する。人権集会をして人権意識を高める。教職員の日頃の意識も日頃から手本となるようなあいさつを意図的に実践する。	親と子で、あいさつの定義が異なるために差が出るのではないかと。あいさつされたら会釈するところから始めてもよい。子どもの気持ちに寄り添い自信を持てるように声掛けや具体的な指針を示す。個々の子どもをきちんと理解しようとする先生方によって感謝している。楽しく過ごせるように継続した取組を期待する。
健やかなからだづくりのための力点 ◎体を動かすこと・外遊びの奨励と環境整備 ◎体力づくりの推進 自らの健康に関心を持ち、健康な毎日を送るための食育指導と保健指導を推進	◎児童が体力向上の意欲を高める授業づくりや運動環境の工夫 ・外遊びをする児童 80%以上 ・運動が好きと答える児童 80%以上 児童会企画（大玉転がし大会、なわとび大会）やマラソントイムで体力増進の機会を設定 「早寝・早起き・朝ごはん」の取組をすすめ、感染症対策を継続しつつ、健康で規則正しい生活を目指す。	「天気の良い日は外で元気に遊ぶ」は、児童87%、保護者54%、「運動をすることが好きだ」と回答した児童88%、保護者は70%である。児童は冬季になってもよく外に出て運動や雪遊びをしている。また、苦手意識があっても縄跳び等に積極的に取り組んでいる。 大玉転がし大会や運動会の全校リレーは縦割り協力し、練習もしっかり取り組めた。マラソンの練習も目標を持って黙々と走る児童が多く見られる。なわとび練習は、冬場の体力づくりに役立っている。 「10時までに就寝」は保護者の93%（昨年93%）ができていますと回答。児童は86%[1年：77%、2年：75%、3年以上88%]（昨年全校91%）。今年度は低学年の夜更かしの割合が増えている。元々学年が上がるにつれ夜更かしの傾向が強い。発達段階にあったメディアの使用や必要に応じた感染対策、手洗いの徹底等習慣化するように指導を継続している。	A A B	個々に目標を持たせて体力づくりに取り組むようにする。校内放送等を活用し、引き続き手洗い、換気など感染予防に努める。 休み時間に運動をすること以外の方で心や気持ちの切り替える児童もいることを理解しつつ、学級遊びも企画して外遊びの楽しさを経験できる機会を持つ。 タブレット端末の使用やゲームをする時間を長い児童もおり、PTAとともに「早寝早起き朝ごはん」の定着に粘り強く取り組む。	健やかな体づくりのために、合唱の活動も大いに役立っている。指導の力点に入れてもよい。外遊びや体を動かす事が好きな児童が多く良い傾向。 布団に入ってからタブレット端末を使用することも想像される。保護者にもこの時期に必要なことを学ぶ場を持つとよい。
地域とともにある学校 ◎地域の教材の効果的活用と、地域人材からの学びの場を創出する小中一貫教育の推進 ◎発達段階に応じた学習規範の実施 ◎小中教員による授業づくり ◎学校・地域連携カリキュラムの実証	学校運営協議会 ・学校と地域がつながる機会や方法について協議し、地域に開かれた学校づくりに努める。 小中合同による授業づくり ・共同授業研究を機会として、学区内の児童生徒の学力状況や学習課題にせま。 ・中学校区で学校・地域連携カリキュラムの実証を行う。	学校運営協議会では、学校地域連携カリキュラムの作成から、地域と学校のつながる機会について話し合いを深めた。新しいボランティアさんの門戸を広げることで、校区めぐり、箱館山学習、焼き芋、マラソン見守り、九九や除算、左義長、にボランティアさんと呼ぶことができ児童の学習支援ができた。 小中一貫教育の日を今津中学校区内で設定し、小中お互いの様子を参観し合う公開授業ができた。また、次年度に向けて小中一貫教育で取り組む研究や地域活動について本年度の取組をもとに具体的な内容の検討会を小中合同で進めている。	A A B	地域人材を生かした活動については、地域連携カリキュラムに沿って、計画的に実行する。ボランティアさんの連絡調整の窓口を明確にして、教育活動の充実を目指す。 小中一貫教育の日を実施した部会の内容を共有し、目指す子ども像を明確にする。地域の活動を小中で連携して行う機会を継続する。	地域の良さや魅力を知る機会が多くあり、とても良いと思う。自分の住む地域を子どもたちがさらに好きになることを期待する。年々地域との連携が深まっている。地域で行われている活動や行事に親子で参加することが、地域の良さを見つけるきっかけになるとよい。地域の応援協力体制が一層深まるとよい。

学校 関係 者 評 価	総 北小学校は子どもたちが安心できる居場所作りが奮闘されていると思う。小規模校ならではのきめ細かな取組や地域との連携に工夫があり、評価できる。行事の様子を観ていると、子どもたちが楽しく過ごしている様子がよくわかる。ミクロで見れば、課題はあるが、マクロで見れば、よいところも多く、課題が広がることも多く、よい学校であると評価できる。人材の活用など、大いに連携を図り、その活用方法を保護者にもさらに広げて行くとよい。地域の方々の支援に感謝するとともに、支援したいと思う学校づくりに尽力されていることから、目標を達成したと考える。	評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点 基礎学力のさらなる定着に向けて、限られた時間を有効に活用し、方策を絞って取組を進める。 地域連携について、さらに間口を広げて幅広い取組を重ねる。 縦割り活動を活性化させ、一人ひとりの達成感や達成感を高めることで、自己肯定感を高める。 地域の良さを知ることができるように学習の内容を工夫する。 家庭学習の定着には、各家庭の協力も必須で、家庭での協力ができそうな学校の取組も必要である。 「いじめのない」という指標の表現方法を工夫し、望ましい人間関係に到る取組について指標に挙げる。
-------------------------	--	---	----	---

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

(様式1)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木東小学校

学校 教育 目標	心身ともにたくましく、ふる里を愛する 人間性豊かな子どもの育成 ～自分らしく生きていく力を育む～ なかよく たくましく 生きる (共生) (自立) (創造) 徳 体 知	←	昨 年 度 の 評 価 概 要	○基礎学力は、少人数であることやICT機器の活用、教職員の努力で、ほぼ定着している。 ○地域の人、もの、ことをこれからも活用し、子どもたちの成長を家庭、学校、地域のみならずで支えていきたい。 ○コミュニティスクールの意味を全職員が理解し、活用してほしい。 ○本当に様々な体験や行事があり、地域ボランティアの方もたくさん参加していた。今後も児童数が減少していくことは確実だが、大規模校ではできない朽木らしい学びが引き続きできることを願っている。	←	中 期 的 目 標 ・楽しく明日も来なくなる学校の創造 ・自律の力、自学自習できる力の育成 ・児童が学びを実感できる授業の実践 ・自分の思いを表現する力の育成 ・豊かな人間関係づくりに向けた実践
----------------	---	---	--------------------------------------	--	---	--

評価項目(指導力点)		指標：到達目標(成果指標・取組指標)		達成状況		評価		改善方策		学校関係者評価	
徳 なかよく	①仲間・集団づくり ・心に響く道徳授業 ・いじめを許さない学校づくり ・共感的人間関係の育成	・道徳の授業改善と保護者への授業公開 ・道徳の授業は大事だと答える児童	90%以上／年1回 80%以上	高学年…小中PTA合同研修会「ネットの情報を正しく判断する力」に保護者と参加 授業参観で道徳の授業を公開 道徳の時間にくる子97%	B	A	A	・「命の授業」や「ネットの情報を正しく…」など外部講師による授業は児童にとって印象深い学習となり、自他の命、人権について考えるよい機会となったため、ぜひ継続したい。 ・道徳の公開授業は、限られた回数の授業参観なので、計画的に実施したい。	・命の大切さについての学習は重要だと思う。 ・少人数での道徳授業は、多様な考えが出づらく、工夫が必要。考えを引き出す動きや地域のゲストティーチャーの参加など、いろいろな手法でほしい。 ・言葉で人を傷つけることがあることも知ってほしい。 ・園小中15年間を通した朽木ならではの教育がよくてよい。特にBUTは西小交流の日に行われており、東西小と中学校との連携にとってもよかった。 ・学習発表会は定着しており、1年間の活動がよくわかる取組。可能な限り地域へ還元するために土日間隔にできるとよい。		
	②共生する力・生き方学習継続 ・特色ある地域学習の継承発展 ・自然体験活動の充実 ・他校間との交流活動の実施	・縦断放流(1,2年)・川に学ぶ学習・町探検(3年) ・森林体験(1～5年)・「どんぐりアポイント」(3年以上) ・朽木探訪サイクリング(5,6年)	全校	年間計画に基づき、保護者、地域住民、各種団体の協力を得て実施 児童：朽木の自然の良さを知ることができた(100%) 保護者：朽木の自然環境を生かした教育活動を推進していると思う(100%)	A			・こども園と中学校が隣接する好条件を生かし、また協力的な地域ボランティアとの連携により、引き続き小中一貫教育や朽木の豊かな自然を生かした活動を推進する。 ・協力してくださる地域住民の高齢化への対応として、保護者への協力依頼を強化する。	・家庭・地域との連携の項目が全て100%になっており、子どもたちのために学校と保護者と地域が協力し合っていることに取り組むことが大切にされていることがうかがえる。 ・自閉・情緒学級の児童理解を年間通して深めていくことが大切。		
	③特別支援教育・福祉教育推進 ・個別支援計画による指導相談 ・障がい児(者)理解教育推進	・福祉教育計画の実施(社協連携) ・特別支援教育理解推進(児童・教員)	1単元／年 随時	教員：積極的に関心・関与の取組に参加し、充実したものになった(100%) 保護者：園小交流など地域に開かれた教育活動を推進している(100%)	B			・引き続き、社会福祉協議会と連携し、系統的な福祉学習を進めていきたい。 ・特別支援教育、障がい者理解学習を一層充実させる(自閉・情緒学級の新設に関わる指導)	・障がい者への理解とそれを受け入れ実践できる子どもたちに育ってほしい。		
体 たっしやで	①安全・安心な環境づくり ・健康教育と心のケア ・教育相談週間の計画的実施 ・校内外での安全対策の徹底	・「学校が楽しい」と思う児童 ・調査結果即指導対応ケース会議 ・安全対策マニュアルの活用 ・避難訓練の実施	100% 随時 通年 3回／年	児童：学校に来るのは楽しい(92%) 教育相談期間を学期ごとに設定、実施 安全対策マニュアルの全職員への配布、周知、研修を実施 避難訓練3回(4月火災、11月地震、引き渡し予備訓練、1月不審者)	B	A	・担任による定期的な教育相談期間だけでなく、非常勤講師を含む全職員が全校児童を見守り情報共有することを意識する必要がある。	・『NO!メディアウィーク』は今後も継続してほしい。本を読むこともそうだが、他にもメディアがない週ご方日のイベントがあるといい。 ・『NO!メディアウィーク』を家族との会話ウィークに活用してほしい。			
	②生活習慣確立・食育推進 ・『NO!メディアウィーク』の実施 ・保健学習・食育指導の充実	・『NO!メディアウィーク』の中学校区共通実践 ・栄養教諭による各学年食育TT指導 ・養護教諭とのTT指導による保健指導(高学年)	毎学期	記録内容の見直しを実施(養護教諭部会) 年間計画に基づき、中学校の調査テストに合わせ学期ごとに実施	A		・『NO!メディアウィーク』中に比較的児童は努力しているが、日常的な減メディアになるような取組を考え、啓発・実施していく必要がある。	・サイクリング、山登りは地域と学校との協力が不可欠な行事。何かをやり遂げる貴重な体験。伝統行事として計画・消化するのはなく、朽木の良さを再発見する手段として有効に活用する。			
	③体力向上策の継続 ・季節に応じた体力づくり ・体育授業の充実、体育的行事の工夫	・体育的行事の内容工夫、改善 ・体育的行事と児童会活動とのリンク ・できる技を増やそうと頑張る児童(訓練、なわとびなど)	通年 随時 100%	運動会、ベースランニング走、サイクリングなど計画どおりに実施 運動会に中学生との合同競技を実施(中学校生徒会) 児童：体育的行事に一生懸命取り組んだ(97%)	B		・運動場で体を動かして楽しく遊ぶ姿が多くみられた。中学校生徒会が参画し運動会の小中合同競技を決定したが、小学生の参画も考えたい。	・教育相談は常に児童に寄り添うという姿勢を全教職員がとる不断の努力が必要。それが児童に浸透していく。 ・児童数が少ない中でいろいろな運動会やイベントの開催は大変。運動会に合ったより多くの機会設定が必要。 ・子どもが楽しく遊んでいる姿を見てホッと気持ちいい。中學生との話し合いもよいと思う。			
知 きばる	①学ぶ力向上のための授業改善 ・合同授業研究システム ・教科担任制の実施 ・複式解消のための時間割工夫	・「勉強がわかる」と回答する児童 ・園小中での保育・授業交流 ・BUT小中連携学び合い学習 ・P・DCAによる学ぶ力向上策の推進 ・教科担任制の実施と時間割の工夫	70%以上 随時 1回／学期 毎学期 通年	児童：毎日の勉強はよく分かる(92%) 保護者：学校は基礎基本の定着を図っている(87%) 年間計画に基づきBUTを実施(机学習、体育など毎回工夫) 職員会議等で全国学力学習状況テストの結果を分析、共有 非常勤講師の有用活用による教科担任制をほぼ全学年で実施	B	A	・授業は、担任や非常勤講師の持ち味を生かした学習活動になっており、児童や保護者の満足度は高い。校内研究以外の時間に相互参観するなど、さらに教員の指導力向上に努めたい。 ・BUTに関する理解、取組について小中学校の職員間で差があり、共通理解を図る必要がある。	・家庭学習の定着は、学年と学習レベルを考慮しなくてはならず、各学年でのモデルを設定し、児童、保護者と共有して取り組むこと。 ・高学年では家庭学習の進捗のプランを考えさせ、保護者と共有し、読書を継続して取り組んでもよい。 ・読書に関しては子どもだけでなく、保護者の読書率も家庭での読書習慣に關する。保護者も一緒に本を楽しむ機会があること。			
	②「学びの保障」に向けた取組 ・指導計画見直しと指導法の工夫 ・「個別最適な学び」と「協働的・探究的な学び」の実現(タブレット有効活用)	・小中合同授業研究会の実施 ・ICTを活用した効果的な学習指導 ・家庭学習時間10～15分×学年 ・朽木東小学校漢字検定の実施	2回／年 90%以上(教員) 100% 朝学習、国語科	小学校教育、中学校英語で授業研究会を実施 教員：積極的なICT活用、情報活用能力の育成と効果的な学習指導(92%) 児童：家で宿題や自主学習に進んで取り組んだ(82%) 保護者：進んで家庭学習に取り組んでいる(60%) 朝学習の時間、国語科の学習での実施	A		・教員、児童ともICTの活用能力は向上し、授業での使用頻度も高い。マナー面での指導は引き続き行う必要がある。 ・家庭学習に関する意識が児童と保護者では差が大きい。差が生じた原因を探る。	・今年度教科担任制となり、保護者として不安があったが、様々な先生から学べるのが楽しいようであった。 ・教科担任制は、子どもも最初戸惑ったと思うが、慣れさせて成果も出ている。 ・タブレット・端末の活用については、正しい使い方の指導を十分にしている。			
	③学習規律確立・学習習慣定着 ・学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり ・読書活動の充実(学校司書活用)	・毎日の朝学習(読書タイム、教科学習等) ・「自学自習」できる家庭学習の支援 ・朝の読書語り(全校) ・図書サロンの訪問貸し出し	15分／日 毎週 毎週 隔週1回	授業時間にカウントできるような朝学習を計画的に実施 教員：自分から進んで学習している(74%) 児童：保護者の協力を得ながら家庭学習の充実に向けた(90%) お話サロンの協力により全学年で実施 朽木図書サロンの協力により結ルームで実施。毎回ほぼ全校の児童が集まる読書習慣に關しての回答 本を読んでいる児童：79%(保護者：44%)	B		・「家庭や学校で本を読んでいる」と回答した児童の割合に対し、「子どもに読書の習慣が身につけている」と回答した保護者の割合が低い。親子で読書を楽しく機会などを設け、読書の違いを埋める機会を設ける必要がある。				
学校 チーム	・コミュニティ・スクールの推進 ・地域連携カリキュラムの検証 ・地域とともに創る教育活動	・各種広報・学校メール配信・HP更新 ・「結の会」通信発行・地域メール配信 ・学連協での課題解決に向けた熟議 ・学校地域連携カリキュラムの実践・検証	随時 随時 5回+α／年 年内	返予定の定例配信(100%) 学校だよりのHPへの掲載(100%) 1, 3, 5回を3校合同で実施(全体会)、2, 4回を各校で実施 全体会へは、朽木支部、公民館、こども園にも出席依頼	A	A	・学校だよりや会議の場で、保護者や地域に学校の現状や児童の様子を伝えるよう努力する。 ・地域協働活動を推進しながらカリキュラムの見直しを図る。	・学校地域連携カリキュラムは、学習成果を保護者や地域にも伝え、常に更新してほしい。 ・引き続き、園小中15年間つながりのある学びのために、地域の子どものためにという意識で協力者が増えていくこと。 ・学校だよりは子どもたちの様子がよく分かる。			

学校関係者評価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
なかよく(徳) たっしや(体) きばる(知) チーム学校	道徳の授業や命の授業は大変重要な教育活動であるから、少人数の学習でも多くの意見を引き出す工夫をしながら取り組む。命、人権(言葉遣い)、障がい者理解など実践的な態度の育成に努めている。BUTなどを活用し、園・東小・西小・中が連携しながら15年間の教育を見守る教育を継続してほしい。 ノーメディアウィークの取組を継続し、読書や家族との会話などメディアなしの過ごし方を考える機会にしたい。伝統的な行事の意義を再度確認し、朽木の良さを知る機会として活用しながら、発達段階にあった体力の向上を図ってほしい。 読書や家庭学習の取組はどちらも大切であり、各家庭との共通理解が欠かせない。家庭学習の進め方のモデル提示、親子で本を楽しむお金の設定などが必要ではないか。様々な教員から学べる教科担任制の学習は一定の成果をあげている。 地域連携の成果を保護者や地域と共有し、地域の子どもたちを育てる協力者を増やしてほしい。	A	朽木中学校区の特徴であるBUTを園小、小中の重要な交流の機会であることを、全職員が認識できる小中一貫教育の推進体制を見直す。少人数のメリット・デメリットを共通理解しながら、様々な教科で多様な意見に触れる授業を工夫する。 各校の養護教諭が情報共有しながら、取組や評価方法の改善を図りながらノーメディアウィークを継続する。職員全員で総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、福祉、朽木の歴史・自然、平和学習、体力向上などを体系的・系統的に学べるようにする。 児童の情報を共有しながら担任、非常勤講師とが連携し、基礎・基本の定着、話す力・思考力の伸長を核とした授業づくりに努める。知的財産となる家庭学習の質向上と読書習慣の定着などは家庭と共通理解を図りながら改善を図る。 地域連携の要となるカリキュラムを見直し整理する。CSのしくみを生かし、学校関係者評価の項目を学校運営協議会で設定する取組を進める。

4段階評価(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

学校 教育 目標	針畑を愛し、地域とともに 元気に生きる子どもの育成 ○ 自他の健康と命を大切にすることの育成 ○ 深く考え根気よく行動する子どもの育成 ○ 豊かな心と夢をもつ子どもの育成	昨年度の評価概要 ・へき地校の極小規模校ではあるが、公立学校としての様々な制約・制限がある中、朽木西小学校ならではの教育活動が展開されている。また、一人ひとりの行動や考えが尊重されるため、いじめ等が発生していないことはよいことだ。 ・個々の児童の個性や学習意欲を大切にしているため、向上心の伸長に繋がっている。一方で体力向上においては、学年が異なる集団であること、少人数であることが課題になっているので、個人個人の目標設定が必要である。 ・地域住民との関わる行事が多く、大人の言動を知るよい機会になっており、児童の成長に繋がっている。今後も、様々な技術や知識を持つ地域人材、継承されてきた伝統行事や活動などの地域素材を活用した教育活動を展開してほしい。	中期的目標 ・へき地校ならではの教育活動の工夫 ・幼小小中一貫教育の一層の充実 ・＜東小との交流、合同学習＞ ・「地域とともにある学校」の推進 ・キャリア教育の充実
----------------	---	---	---

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○ 自他の健康と命を大切にすることの育成 1. 適切な言葉遣いの習慣化 2. いじめを許さない学校づくり 3. 体力の向上 4. 安全・健康に対する意識強化 5. 防災・安全教育の推進	① TPOに応じたあいさつ、言葉遣いの定着【毎学期末自己評価】	あいさつによるコミュニケーションがとれることはよいことだが、心無い言葉を耳にすることがある。地域の方や教師となれ合いになってしまっている面も見られる。	B	親しい間柄でも言葉を選んで会話できるよう、その都度指導していく。	・登下校中の挨拶はしっかりできているが、先生との会話に耳障りな部分がある。 ・表向きの丁寧さではなく、本当の気持ちでこもった言葉を使うようになってほしい。 ・児童2人だけでは、いじめは見られない。 ・思い通りに自由に遊んでいる。 ・生活リズムや自学自習については家庭習慣の影響が大きいので、家庭に委ねるとよい。 ・上針畑防災福祉組と連携し実践できている。 ・先生方が地域防災に協力してくださるのは、たいへんありがたい。 ・心肺蘇生法の講習会では、地域の方や児童が積極的に取り組み、意識が高いと感じた。
	② 児童会によるいじめ防止の取組【毎学期1回】	毎月の生活目標を決める際に「仲良く」「楽しく」といった言葉も出ており、よく意識はできている。無意識に相手が悪くないと思えるような言葉が発することもある。	A	相手がどう感じるか考えた言動ができるよう、言葉遣い同様に、その都度指導していく。	
	③ 長休み・昼休み等を活用した全校での運動遊び【毎日】	学年の違う男女が一緒に遊ぶことはなかなか難しいと心配していた。大人も混雑してのことはあるが、一輪車やパトミニン等の遊びが定着した。	A	現状を踏まえつつ、児童同士で遊ぶ時間も含め、引き続き運動遊びを推進していく。	
	④ 生活リズム定着に向けた指導【毎日】	学校生活では、基本的な生活習慣に関することは指導できているが、特に登校時の遅刻や家庭での生活リズムで気になる面がある。	B	箇箇きの指導は引き続き学校でも行う。家庭での生活に關して個別懇談などで話題にする。	
	⑤ 「自学自習」の実践【毎学期末自己評価】	教師と児童1対1の学習では、身に付きにくい状況にある。家庭の理解・協力がなければ、自ら学習を進めていくことは難しい面がある。	B	2学年合同の学習時に、引き続き各担当が意識して取り組むようにする。(音楽・図工・書写・体育等)	
○ 深く考え根気よく行動することの育成 1. 深く考える指導の工夫 2. 自主的、実践的態度の育成 ＜自学自習の力＞ 3. 学習意欲の向上と基礎・基本の定着 4. 家庭学習の工夫と習慣化 5. 幼小小中一貫教育での学びの充実＜遠隔授業交流・遠隔合同学習＞ 6. 外国語教育の推進 7. 読書活動の充実	⑥ 保護者や地域・関係機関等との連携による実践的な防災・安全学習【年間4回程度】＜地域防災福祉組との連携＞	地域の方々の防災意識が高く、協力的であり、上針畑防災福祉組と連携する機会ももてた。児童と地域の方が参加する心肺蘇生の講習会や放水体験等は、他の学校にはない取組である。	A	次年度も継続して地域と協働して取り組む。地域の表情に即した防災・安全教育に取り組む。	・東教委の指導の下、少人数ならではの集中学習ができている。 ・授業参観の際は、しっかり考え発言している様子があり、各段からの積み重ねの成果である。 ・苦手な科目は、様々な教材を提示し、興味を誘う方法などと思う。 ・タブレット端末の活用は昭和時代の学校教育下経験者としては従来より限りである。遠隔授業も時代の流れを感じる。 ・小学生の段階でタブレットを常に使用することには疑問がある。子どもの時に手書きや書物の調べものなどなければ、大きくならなければならないと思う。 ・他機関との合同教育は大切に機会を増やそうとい。 ・朽木図書館サロンの協力の下、読書の機会が増えていることは素晴らしい。
	① 極少人数の良さを生かした授業改善(自学自習) (一人一授業公開、授業研究会の実施)【100%】	友だちの意見をふまえて考えたり協働的な学習に取り組んだりすることは難しい。東教委や講師を招き、実りのある校内研究会を実施することができた。	A	授業改善に関する研究に引き続き取り組む。	
	② 「授業が楽しい、勉強がわかる」児童の評価【100%】	得意な学習と不得意な学習で児童の表情や意欲は明らかに違って見える。苦手なこと(根気の必要な学習等)でも前向きに取り組めることよい。	B	苦手なことでも楽しく取り組めるよう、課題との出会わせ方や教材づくり等の工夫に努める。	
	③ 効果的なICT機器の活用(一人一台タブレット端末)【随時】	使用頻度が上がり、操作にも慣れてきた。児童と教師1対1の授業では、タブレット端末活用のタイミング等に課題が見られる。	B	手書きや書物による調べ学習の良さも加味して、活用機会を精査していく。	
	④ 東小学校での交流学習・BUT・遠隔授業交流・遠隔合同学習や中学校教員による教科担任制授業の実施【年間複数回実施】	東小との交流やBUTは、普段関わりない同級生との関わりや中学生との関わりがもてる良い機会となっている。沖島小との遠隔交流が実施できた。	B	遠隔合同学習や中学校教員による教科担任制授業については、こちらから新たに働きかけていく。	
○ 豊かな心と夢をもつ子どもの育成 1. 体験を通した学びの充実 2. マ이스クール事業の推進 3. 自分の思いや感謝の気持ちを豊かに表現できる心の育成 4. 考えを深く心にひびく道徳教育の推進 5. きめ細かな教育相談の実施 6. 系統立てたキャリア教育の推進	⑤ コミュニケーション能力の素地を培う外国語指導助手とのT.T授業(遠隔授業)【低10時間・中35時間・高70時間】	低中ともに時間数は充分実施できている。4年生はマンツーマンでの授業となるため、内容も濃いものとなっている。楽しいイベント等も共に活動することができた。	A	次年度は高学年の在籍があるため、毎週の授業になる。時間数の調整が必要。(今年度は隔週)	・最近の学校行事に多くの参加者が見られるのは、左に書かれた活動等を通じて、地域と関わろうと努力しているからだと思う。 ・下針畑サロンの参加は、非常に参考になり、得る道徳的教養も大いに期待できる。 ・和太鼓演奏では、自信をもって堂々と演奏する児童の様子に感心した。 ・新旭鼓西太鼓の皆さんとの協演は、新しい展開だが、これを通して子どもたちが楽しく思い、思ってくれたら良い。 ・感謝と大切に思う心の教育は先輩、先人、歴史を大切にすることから生まれると思うので、地域のご老人の話を聞くことよい。ご老人の体験談授業も面白いと思う。
	⑥ 読書の質の向上 ・朝読の実施、家読の奨励、新聞記事の活用 ・「お気に入りの1冊」発表会【毎学期1回】 ・読書量の増加【月：低10冊、中5冊、高3冊以上】	児童数が2名ということもあり、自分たちで選ばせて興味のある図書を購入することができた。そのため、進んで読書に親しんでいる様子もうかがえる。毎月サロンの本を届けられていることは大変ありがたい。	A	5年生(高学年)になるため、新聞等の活用による時事問題についても考えさせたい。お気に入りの一冊の発表も学期に一度と言わず、機会を見て実施する。	
	① 地域、自然、文化を生かした体験学習【年間7回以上】	やまのこ学習も実施でき、下針畑サロンの交流ももちつき等、昨年にない活動も実施することができた。地域訪問、フナ原生林の散策、へしこづけ、どち餅づくり、わらび採り等、地域の自然の恵みを生かして触れる機会ももてた。	A	地域の方と合同の行事を通して、地域の方と触れ合う機会を大切に、地域の自然や人、文化を学ぶ活動を継続していく。	
	② 和太鼓演奏の技能の向上とその成果の発表【運動会・文化祭・感謝祭・交流事業等年間5回以上】	新旭鼓西太鼓さんへ来訪していただいたおかげで、行事等で発表する機会もつことができ、たいへん充実した活動になった。	A	朽木西小の伝統的な取組として、引き続き新旭鼓西太鼓のみさんにご協力をいただく。	
	③ 感謝する心の育成と仲間づくり【毎学期末自己評価】	地域の方々のふれあいや、講師の方々のお話などから、へき地にいながらも感謝する心は育成されていると感じる。子どもとの会話で思いやりのある言葉が聞けるようになってきている。	B	感謝の気持ちを伝えたり、感謝される行動が身につくよう機会を指導していく。	
○ 地域とともにある学校づくり(チーム朽木西) 1. 保護者や地域、関係団体・機関等との情報共有と信頼関係の構築 2. 学校運営協議会の運営と地域学校協働活動の推進	④ 地域の方や保護者が参画する道徳授業の実施【年間1回】	学連協やPTA行事と組み合わせたことで、保護者や地域の方々に参観してもらうことができた。	A	より多くの方に参観していただけるよう、機会あるごとに周知していく。地域の方に語ってもらえる授業があっても良い。	・「地域とともにある学校づくり」は西小の看板課題であり、これが欠けると地域が持続出来ない。 ・HPは認知度が低いため、意識しないと見ないで、学校だよりの地域配布はありがたい。 ・様々な行事に多くの地域の方が参加しておられ、見守ってくださる温かさを感じた。 ・学連協は朽木中学校区全体の方向性をあらゆる観点から議論する組織として、その責任は重要である。
	⑤ きめ細かな教育相談の実施と全職員による情報共有・対応【随時】	会議の時だけでなく、朝の打ち合わせや放課後等つねに情報共有ができている。情報共有をもとに、さらに組織的な対応ができるとよい。	A	情報共有をもとに、それぞれの役割を生かした組織対応ができるようになる。	
	⑥ 「キャリアパスポート」の活用、キャリア教育の推進【毎学期末自己評価】	年度初めや学期末に忘れず取り組むことができた。子ども達の未来像が、より具体的に「なりたい足跡」が分かる内容にしている。	B	キャリアパスポートだけでなく、なりたいたい自分を語る場面を大切にしている。	
	① 保護者会・学校評価等でのニーズの把握と学校だより・HP更新による情報発信【随時】	地域のニーズや要望は、地域とのつながりがよく取れているので、その都度声が届ける環境にある。月に2度、ホームページの更新ができているが、学校だよりに限られている。	A	引き続き地域との連携を大切にし、気軽に情報を伝えてもらえる関係づくりに努める。HPの更新、学校だよりの内容等さらに工夫していく。	
	② 学校運営協議会での学校教育目標や経営方針等の共有、課題解決に向けた熱議【年間5回】	地域でも中心になっている方々に学校運営協議会委員を務めていただけていることは大変ありがたい。今後も地域のみなさんの意見をいただきながら、課題解決に向かいたい。	B	学校運営協議会委員との関係づくりに努め、学校運営について積極的に相談する。今後の動向を見定め、地域の意見を生かした学校運営に努める。	

学校関係者評価	総	評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校関係者評価	・へき地小規模校で全校児童2名となり、教師と児童が1対1の授業を展開する状況の中で、様々な課題もあると思うが、少人数の良さを生かした授業や活動を展開していくてほしい。 ・少ない児童ではあるが、教員だけではなく、地域の方や関係機関の方々と上手に連携して進めることができている。 ・「地域とともにある学校づくり」の観点、朽木西小の存続に課題がある今日、関係個人・団体への行事ごとの呼びかけや招待状の配布は地域に人々を呼び込む「きっかけ」になりと思われ、個々に活動している地域住民も一緒にアクションを起こさなければと強く感じる。 ・今年度同様今後も、様々な技術や知識を持つ地域人材、継承されてきた伝統行事や活動などの地域素材を活用した教育活動を展開してほしい。	4段階評定(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)	A	① 全校児童2名という少人数集団ならではの良さを生かし、一人ひとりの個性や発達段階、能力に応じた目標を適切に設定し、引き続き丁寧指導を行う中で、主体的に判断しながら行動できる児童の育成に努める。 ② 地域と協働した朽木西小ならではの取組について、地域や関係機関の方々とともに残すべきことと変えるべきことを見極め、本校の実情に合った教育活動を推進する。 ③ 朽木東小や朽木中学校等、他校との交流を重視し、普段とは違う学習環境の中で学ぶ機会を保障する中で、社会の中で自信をもって生き抜く力を育む。 ④ 昨年度同様、学校・地域連携カリキュラムを基に、地域の文化を知る活動や地域の方とのつながりを大切にする活動を推進することで、地域を元気にし自らも元気に生きる児童の育成をさがり、教職員も引き続き地域とのつながりを意識して行動する。

(様式1)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立安曇小学校

学校 教育 目標	豊かな心と自ら学び考える意欲をもつ 心身ともにたくましい安曇っ子の育成 じょうぶで がんばる やさしい子	昨 年 度 の 評 価 概 要	・全体を通して教育目標に対する学校の努力が見られる。 ・学校は楽しいと思える子どもたちが増えて欲しい。「わかる授業」と「居心地のよい学校・学級」がかけたい。 ・自ら学び考える＝(魅力ある授業)をもう一歩前進し、先生や友達の話をしっかり聞き自分の意見をはっきりいえるようになると良い。 ・教職員の働き方や学校の業務を見直し、教職員の負担の軽減を図ることも大切である。子どもたち一人ひとりと向き合えるよう学校現場の改善が必要である。 ・子どもたち一人ひとりに寄り添い教育を行うことの大変さを感じた。今後も継続してボランティア(地域人材)の活用呼びかけを行う必要がある。	中 期 的 目 標	・基礎、基本の確実な習得と、学び合いを活性化し、主体的・対話的で深い学びの創造 ・読解力等言語力、活用力を高める授業の展開 ・ICTの活用による、わかる、できる授業の創造 ・道徳教育の充実で豊かな人間関係を育成し、いじめを絶対に許さない仲間づくりの推進 ・健康、体力づくりと、豊かな心の育成 ・小中一貫教育の推進による教育課程や生徒指導面での連携とキャリア教育の一貫した取組 ・地域学校協働活動を核とした地域とともにある学校の推進
----------------	--	--------------------------------------	--	-----------------------	---

評価項目(指導カ点)	指標：到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○自ら学び考え、行動する力を育む教育の創造 ・魅力ある授業で、基礎的・基本的な学習内容の定着と主体的な学習の推進 ・1人1台端末を生かした個別最適な学びと協働的な学習の実現 ・生活科、総合的な学習の時間をもとに探究的な学習の推進 ・読み解く力を育成し、自分の言葉で表現する力の育成 ・パワーアップタイム等による「書く力」の育成	・授業が楽しい、わかる88%以上 ・パワーアップタイムで、「書く力」がついた90%以上	・授業が楽しくわかる83.8% (児童) ・学習内容をだいたい理解している89.8% (保護者) ・パワーアップタイムで、「書く力」がついてきた80.1% (児童)	B	・基礎基本を大切に、一層一人ひとりをきめ細かく見取っていく。 ・パワーアップタイムの継続	・パワーアップタイムの取組がよい。優秀作品を廊下に掲示するなどして喜ばせながら進んでいくことが良い。継続していくことで、書く力・考える力が養われていくと考える。
	・相手の話をしっかり聞いた児童評価が88%以上 ・自分の考えを持ち、発表したり深く考えたりしている85%以上	・先生や友だちの話をしっかり聞いた91.9% (児童) ・学習準備や話の聞き方など学習規律を確率できた64% (教師) ・自分の考えを持ち、発表したり深く考えたりしている81.5% (児童)	B	・学習規律の徹底を図る。 ・話し合い活動の充実を図るとともに、自他を認め合う学級づくりを推進する。	・全学年でタブレット端末を活用した授業が行われており、わかりやすい。子ども達もタブレット端末を活用した授業が身についている。 ・わかる人がわからない人に教える教えあい、学びあいができるとよい。 ・安曇っ子発表会は、各学年に相応しい発表ができていた。高学年はインターネットから取った画像等を用いて資料を作成している。ネットから取った画像等を使用する場合は、著作権法に触れる可能性があることを伝えていく必要がある。 ・読書推進を図る必要がある。安曇っ子広場等を利用しての読み聞かせの時間等をつくってはどうか。
	・学校行事は楽しい児童評価が90%以上	・学校行事に楽しく参加している93.0% (児童) ・学校行事に喜んで参加している96.1% (保護者)	A	・「つたたい」の共通認識のもと、校内研究・校内研修を定期的実施する。	・今後も学校行事に児童が主体的に関わることでできるような改善に取り組む。
	・効果的上がる校内研究、校内研修とOJTの推進	・全教員参加の道徳授業研究会(校内研究)を年3回実施、事前授業もすべて実施 ・アプリの新機能伝達や校内での活用研修により、全教員がタブレット端末を活用・折々の時期に即したOJT研修会の実施した。	A	・「つたたい」の共通認識のもと、校内研究・校内研修を定期的実施する。	・今後も図書委員会による読書推進を図る。 ・新書(約千冊)の活用を推進 ・学年が下学年の卒への読み聞かせの推進 ・お互いを認め合える学級づくりを推進
○豊かな心と良好な人間関係づくり ・児童によるいじめ撲滅啓発活動 ・言葉遣いや言語環境の整備 ・教育活動全体を通じて、道徳科の充実と藤樹先生の教えに学び実践する心の教育の推進	・学校が楽しい児童評価90%以上 ・学校、学級は居心地がよい児童評価85%以上	・進んで読書をしている73.4% (児童) *1学期末は81.3% (児童) ・月1回の訪問貸し出し、各学級での読み聞かせと読書推進 ・図書委員会により読書週間を実施(しおりのプレゼント)	B	・いじめのアンケートを継続 ・いじめ防止について、委員会や児童会からの活動を推進する。 ・人権月間・人権集会の継続 ・SC、SSWの活用を推進 ・支援を要する子への支援方法の共通理解を図る	・学級の居心地が良い79.8%、昨年度と比較すると2.3%のマイナスとなっている。原因としてどのようなことがあるのか分析する必要がある。 ・学級の居心地が良い79.8%は気になる。1日の大半を学校で過ごすこと、子どもたちの社会の力が学校であるということの意義をもう一度考えて欲しい。 ・「授業が楽しい・わかる」の目標値が達成できなかった。一層一人ひとりに向き合うことが大切である。 ・あいさつへの啓発のため、あいさつ委員など作ってはどうか。 ・言葉遣いや挨拶は、家庭でも声掛けが必要である。地域の方への挨拶や相手を傷つけたり不快にしない言葉遣いは学校でも家庭でも伝えていく必要がある。
	・いじめをしない、許さない児童の育成 ・先生は自分のよいところを認めてくれる児童評価85%以上	・毎学期、教育相談やいじめアンケートを実施 ・先生は自分のよいところを認めてくれる85.8% (児童) ・友達の良さをみつけ合う、まるふわタイムの実施(月1回) ・人権月間を設定し学級の「安心ルール」の振り返りを行うとともに、人権集会を実施 ・特別支援教育会議を定期的に開催。支援を必要とする子の確認と支援方法を共通理解 ・個別の支援計画を保護者と共有	A	・いじめのアンケートを継続 ・いじめ防止について、委員会や児童会からの活動を推進する。 ・人権月間・人権集会の継続 ・SC、SSWの活用を推進 ・支援を要する子への支援方法の共通理解を図る	・いじめにならなくても言葉の悪い、汚い子がいる。人は言葉の暴力でも傷つく。「言葉」について考えさせる時間を持つてほしい。
	・個別の教育支援計画に基づいたきめ細かな指導と支援の実践	・校内研究を道徳科に据えるの実践 ・藤樹先生の教えに学び、よりよく生きる道徳教育の推進 ・縦割り活動、ペア活動による良好な人間関係の育成	B	・縦割り活動のさらなる充実を図る。 ・自己の生き方を振り返る道徳授業の充実。 ・言葉遣いやあいさつへの啓発・指導強化	・生活習慣の改善については家庭の方なくては進まない。そうしたところまで学校が役割をみるというのは気の毒だが、地道な啓蒙に力を注いでほしい。
	・校内研究を道徳科に据えるの実践 ・藤樹先生の教えに学び、よりよく生きる道徳教育の推進 ・縦割り活動、ペア活動による良好な人間関係の育成	・道徳科を校内研究として、年間3回の全教職員による研究会を実施。中学校区としても講師を招聘し研修を積み、道徳の研究大会を実施 ・運動会の応援練習や清掃活動に縦割りグループを活用 ・縦割り遊びの実施	B	・読書推進活動のさらなる充実を図る。 ・自己の生き方を振り返る道徳授業の充実。 ・言葉遣いやあいさつへの啓発・指導強化	・旧田瀬小学校での高学年のマラソン大会は、一定の成果があったと思う。 ・テレビやゲーム、インターネットの時間を決めている63.4%、昨年度と比較すると6.4%のマイナスとなっている。家庭との連携を一層強化テレビやゲーム等の時間の削減に努める必要があると思う。家庭がスマホやゲームの時間を決め、早起きや朝ごはんのメニューを作ることが大切である。
○たくましい心と体づくり ・素間運動、鉄棒や縄跳び、マラソン等の体力づくりの推進と自己の体力の課題改善に向けた取組 ・食育の推進や早起早起等生活リズムの構築	・マラソンや鉄棒、縄跳び週間、教科体育の充実	・マラソン週間や鉄棒週間の実施。自主参加の縄跳び大会の実施などにより、運動の機会を提供し体力強化を図った。 ・外で遊んだり元気に運動したりしている83.2% (児童)	B	・鉄棒、縄跳び、マラソン等に意欲を喚起できるように(カードやICT等)工夫する。	・旧田瀬小学校での高学年のマラソン大会は、一定の成果があったと思う。 ・テレビやゲーム、インターネットの時間を決めている63.4%、昨年度と比較すると6.4%のマイナスとなっている。家庭との連携を一層強化テレビやゲーム等の時間の削減に努める必要があると思う。家庭がスマホやゲームの時間を決め、早起きや朝ごはんのメニューを作ることが大切である。
	・生活アンケート等を活用した子どもたちの生活習慣の改善 ・早起早起朝ごはんの生活習慣90%以上	・早起早起朝ごはんの生活リズムが定着している86.1% (保護者) ・テレビやゲーム、インターネットの時間を決めている63.4% (児童) ・減塩指導を5年生で実施 ・栄養教諭の指導により全学年で食育指導を実施	B	・家庭学習習慣化週間や生活アンケート等で、保護者への啓発を行う。 ・SNSやネット利用に係る指導の充実を図る。 ・食育指導の継続	・旧田瀬小学校での高学年のマラソン大会は、一定の成果があったと思う。 ・テレビやゲーム、インターネットの時間を決めている63.4%、昨年度と比較すると6.4%のマイナスとなっている。家庭との連携を一層強化テレビやゲーム等の時間の削減に努める必要があると思う。家庭がスマホやゲームの時間を決め、早起きや朝ごはんのメニューを作ることが大切である。
	○小中一貫教育の推進 ・豊かな学びにつなぐ授業研究の充実 ・道徳科の授業の研究推進 ・安心して意欲的に学べる学習環境づくり	・小中教員による共同授業研究を推進する。 ・小中連携による道徳教育の推進 ・6年生の合同学習を、中学校進学への不安解消に役立てる	A	・小中教員が互いの授業や子どもの様子を見たり交流したりして、授業力向上に努める。(継続)	・小中一貫教育の推進に努力しておられることが読み取れる。今後は学習面だけでなく、内面(心理面)にも一層協力して取り組んでもらいたい。 ・中学校になるという期待や喜びの半面、不安を感じる子どももいるであろう中、小中一貫教育は非常に素晴らしいと思う。 ・今後も6年生と中学生の交流活動を継続して欲しい。 ・こうした取組は小中連携の取組である。本質的な小中一貫教育を目指して欲しい。
	○家庭、地域等との連携 ・学校便利等による保護者、地域への情報発信 ・学校運営協議会、地域学校協働活動の推進、学校関わり人口の増加	・あど小通信を月1回以上発行する。 ・新たな学校支援ボランティアの発掘と組織化 ・地域学校協働活動推進員との連携による地域人材の活用 ・学校・地域連携カリキュラムを推進する。	A	・今後も学校だよりの内容充実にも努める。 ・メールでのボランティア依頼の継続 ・学校・地域連携カリキュラムをもとに計画に依拠し募集に努める。	・地域学校協働活動推進員さんのお力によるものが大きい。保護者の力をもっと貸して欲しいと思うが、昨今の働き方事情によると難しいのであろう。今後の課題と考える。 ・メール配信で、早めにボランティアの内容や日時を知らせてもらえるのが良かった。

学校関係者評価	総 評	評 定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・教育現場での限られた時間の中で、子どもたち一人ひとりに寄り添い教育を行うことの大変さを感じた。 ・多様な考えを持つ保護者や児童が増える中、一人ひとりにきめ細かい対応をしていくことは大変なことだと感じる。しかし、「学校が楽しい・授業がわかる」ということはとても大事なことであり、今の取組を継続し、居心地が悪い子どもたちが少しでも減るよう努力を続けて欲しい。 ・教員が子ども一人ひとりと向き合い、関わって学級づくりをしてきたことが参観等を通してよくわかった。これからも学校・家庭・地域が協力し合い、心身ともにたくましく子どもの育成に取り組んでほしい。 ・小学校でつまづくと、中学校では厳しく、小学校の段階で繰り返し学習（特に繰り返しが必要な教科の箇所）の必要性を保護者に伝え、家庭学習と学校の連携で全員がつまづきなく中学校へ送って欲しい。 ・中学生がやや荒れており、赤ちゃんと返りするような状況が見られる。小5・6・中1のつながりを大切にしたい。小中一貫教育の中で、中学生が自己肯定感を育むような取組ができているものか。 ・学校行事を参観していると、先生方の取組やその姿勢から頑張りには十分に表れていると考える。ただ、昨年度の評価概要にある「教職員の負担軽減を図ること」すなわち、「子どもたち一人ひとりと向き合えるよう学校現場の改善が必要」には、まだ余地が残されているのではないかと。そのことが整うことによって、「子どもたちが居心地が良いと思える学校・学級」に必ず変化していくと考える。	B	・居心地のよい学校・学級づくりの取組を一層推進する。今後も道徳教育の充実とあわせ、学級づくりや集団作りを大切に取組む。各学級の「安心ルール」の徹底を図って規律ある集団を目指すとともに、児童一人ひとりに寄り添いきめ細かな対応に努める。 ・自ら学び考える児童の育成をめざし、安曇っ子発表会等の機会を活用し、探究的な学習に努める。読書推進を図るため、これまでの読み聞かせの取組に加え、図書委員会など児童からの読書推進活動を積極的に促す。また、どの子にも「わかる授業」をめざし、これまで同様、配慮を要する児童に対してきめ細かな支援に努める。 ・学校・地域連携カリキュラムに基づき、地域とともにある学校を一層推進する。地域学校協働活動推進員さんとの連携のもと、メールでの呼びかけを積極的に行い、PTAの会議等を活用し学校ボランティアの活動紹介や保護者の参加への啓発に努める。 ・中学校区の小中一貫教育の取組において、小中のつながりや小学校・中学校の指導について改めて議論・検討していく。 ・教職員の負担軽減を図るため、業務の改善・削減に今後も取り組む。

4段階評定(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立青柳小学校

学校 教育 目標	校訓 「良知に生きる」 学校教育目標 自ら学び 心豊かでたくましい 子どもの育成	昨年度の評価概要 ○中江藤樹先生の地元であるので、校訓「良知に生きる」を大切にして、藤樹先生の教えを学校教育の中核に据え、これまでの『青柳小学校ならではの行事』のみならず、日常の学校生活の中でも藤樹先生の教えを意識させ、実践につなげられるような取組をしている。 ○読書活動では、朝読書の定着が進んでいるが、さらに、地元の図書館との連携を図り、ブックトークの継続や図書館訪問を増やしていく。また、家庭での読書習慣の定着を図るために、PTAとも連携していきたい。 ○「学校・地域連携カリキュラム」には写真を入れてわかりやすく工夫し、地域の支援が必要な取組には「ボランティア募集」の言葉を入れるとよい。もっと地域の人に見てもらえる機会があってもよいし、学校だけで難しいことがあれば、保護者や地域をよい意味で巻き込むとよい。	中期的 目標	めざす子ども像 徳：たがいに思いやる子 知：よく考え実行する子 体：明るく元気な子 めざす学校像 地域とともにある学校
----------------	--	--	-----------	---

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・「我が校の学力向上策」の改善により学力向上を図る。 ・保護者と学校が連携し、家庭学習や読書の習慣化に取り組む。 ・基礎基本の定着と活用力の向上を図るため、算数科・理科・社会科等の専科指導を充実させる。 ・ICT機器の有効活用を図る。	・学力向上策の推進において、学期ごとのPDCAサイクルで評価、改善を加え実効性のあるものにする。 ・自己肯定感を育む活動(PTA「長所の花を咲かせよう」運動)の継続実践と振り返りを行う。 ・「先生はわからないときに丁寧に教えてくれる」(児童評価90%以上) ・ICT機器の効果的な活用により「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。	全国学力・学習状況調査の分析を踏まえた学力向上策を推進している。○J・T等で各学年の取組を交流し授業改善に取り組んでいる。教職員評価では、85%がPDCAサイクルにより学力向上に取り組んでいると回答している。 児童評価では、「自分には良いところがある」と回答している児童は91%である。この活動だけでなく、日頃から自己肯定感が高まる声掛けを心がけていくようにしたい。 児童の疑問等には個別指導を中心に丁寧に対応することを心掛けた。児童評価結果は99%であった。 授業における学習ツールとして意見交流や学習のまとめで効果的に活用できているが、工夫の余地があるとと思われる。	B A A B	学力向上推進委員会を中心に、進捗状況の確認と改善方策をさらに検討する。 今後でもPTA研修部からの呼びかけで継続して取り組んでいく。自己肯定感が高まる声掛けなどの関わりを意識する。 学習のつまずきや疑問については、丁寧に個別対応していく。 研修等で学んだ活用法を職員間で交流し実践に生かす。	・小学生の時から勉強のやり方を身に付けておくことが大切であり、自主学習の習慣も身に付けられるといい。 ・ノートに自分の考えをきちんと書くという活動を大切にしたい。 ・書く活動や自分の考えや思いを発表し合う場も大切にしたい。 ・タブレット端末が授業の補助として児童にとって抵抗なく使用されている。機器に使われることなく、機器をうまく利用して学力向上に努めている。 ・家庭学習が重要である。返却されたテストを親子での見直しやノート点検などを保護者に促してもらえると良いと思う。
○言語活動の充実 ・国語科における言語活動を基盤として各教科での言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を育む。 ○読書活動の充実を図る。 ○小中一貫教育の推進 ・小中一貫した道徳教育推進のための共同研究を行う。 ・学校や地域の関係者で目指す15歳児を共有して教育活動に取り組む。	・校内研究のテーマ「良知を磨く「考え、議論する道徳」の在り方」の研究実践を積み重ねる。 ・授業では、振り返りの時間を中心に「書く活動」を多く取り入れ、「読み解く力」の向上を図る。 ・学校・家庭における読書活動の充実により、読書の楽しさを実感させ、読書習慣の定着を図る。 ・中学校の定期テストの時期に、「家庭学習・ふれあい週間」を設け、低学年は親子のふれあい、高学年は自主学習に取り組む。	小中学校の教員が共に、児童の道徳性を養う道徳授業の研究を進めた。また、中江藤樹にもつわる地域教材も活用して、授業を行った。 各学年、学期に1回、国語科で題材について自分の考えをまとめて表現する活動を必ず行った。 朝読書の定着はできているが、家庭で読書をする習慣がない児童が多い。 家や学校でいろいろな本を読んでいる…児童評価87% 子どもに読書の習慣が身に付くように努めている。…保護者評価34% 低学年での親子ふれあい活動に、積極的に取り組む家族が多く見られた。高学年の自主学習においても、強化を図ったことで意識的に取り組む児童が増えた。	A B B A	研究したことを共通理解し、次年度以降の道徳教育に活かす。 自分の考えを書く活動を行い、添削して書き直し、発表など他者に伝えることを継続的に行う。 読み聞かせやブックトークの実施や図書館の利用を増やすことで、児童個々に合った本の選定ができるようにする。 「家庭学習・ふれあい週間」を継続的にを行い、定着を図っていく。	・道徳教育実践推進校として授業に取り組み、児童に「心」の大切さが認識されている。タブレット端末も話し合うためのツールとして有効活用されている。道徳の学習の足跡を掲示されているのもよかった。 ・想像力を豊かにする読書活動は、保護者としてありがたい。 ・読んだ本の感想などを取りだすなどして、読書の雰囲気を高めてもらえると良い。 ・「読書タイム」として、読んだ本の題名などを記入して、読書記録を残すと良い。 ・図書館に出かけたりブックトークを取り入れたり、いろんな分野の本と出会い「読むこと」が楽しくなる工夫がされている。 ・朝読書やPTA「読書カレンダー」など、子どもたちが本に親しめる工夫はとても良い。家庭での読書習慣の評価が低いので、今後、毎週○曜日に30分ほどの親子読書タイムに取り組んでみてはどうか。
○集団づくり ・けじめのある生活を送ることのできる集団を育成する。 ・周りの子どもたちや大人に対して思いやりの気持ちをもって接することのできる集団を育成する。 ・異学年交流を通して望ましい人間関係の育成とリーダーを育てる。	・いじめ未然防止の日常的取組。生徒指導の情報交換やケース会議等による事業への早期かつ適切な対応を行う。 ・「進んであいさつや返事をしている」(児童評価90%以上) ・あらゆる教育活動を通して、周囲の友達や他学年の友達のことを考え、思いやりの気持ちを育てる。上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生に感謝の気持ちを持てるよう指導する。 ・異学年交流や児童会活動の活性化を図る。(たてわり活動、集団登下校、運動会等)	未然防止の取組、生徒指導に係る定期的な報告と情報共有、事業発生時の早期かつ組織対応を引き続き行う。 「おはようございます さようなら」などのあいさつや返事をしている…児童評価97% 保護者評価85% 学級活動や道徳科の授業を中心に他者を思いやる気持ちや行動について考える機会を多く設定し、1年生と6年生が一緒に清掃を行い、6年生は1年生をいたわり、1年生は6年生に感謝の気持ちを持てるようにしている。 たてわり活動や全校的な行事では協力して活動している…児童評価94% 各学年単級であることから、さらに異学年交流を増やすことを検討する余地がある。	A A A A	いじめ未然防止のため、職員の意識を高め些細な出来事も見逃さず、職員間の報告、連絡、相談、記録を徹底する。 PTA、AC等の各種団体と連携したあいさつ運動を推進する。 道徳教育、人権教育を柱とした心の教育を大切にしている。今後も1年生と6年生が一緒に清掃を行う。 藤樹デーや運動会以外にも、たてわり班で活動できる場を工夫する。	・「おはよう」「こんにちは」集団登下校時の挨拶は気持ちが良い。「あいさつ運動」は引き続き取組をお願いしたい。来校時に、挨拶を返してくれる子が多い。 ・登校では、上級生が先頭で下級生に気を配りながら登校していた。 ・小規模校であり、児童全員に目配りを行い、いじめの未然防止対策を熱心に行っておられるので、今後も引き続き行っていただきたい。 ・たてわり活動、1、6年ペアの掃除、運動会等を通して、上級生と下級生が良い関係で学校生活を送っている。 ・児童はACなどの地域行事をとても楽しみにしているの、引き続き地域と連携した行事に取り組んでいただきたい。
○藤樹学習を中心とした地域連携 ・中江藤樹の教えを学ぶ機会や地域の文化や伝統を取り入れた学習を取り入れる。 ・PTAやAC（青柳コミュニティ）、地域学校協働本部との連携を深める。	・「藤樹デー」や「大洲小学校との交歓会」、「立志祭」、「創立150周年事業」等、青柳小ならではの取組の充実 ・「学校では藤樹先生に関係する勉強をやっている」(児童評価90%以上) ・学校運営協議会での熟議を通して、目指す子ども像の実現に向け地域学校協働活動の充実を図る。 ・学校運営協議会、PTA、AC（青柳コミュニティ）、地域学校協働本部等と連携した取組を行う。	「藤樹デー」や「大洲小との交歓会」「立志祭」は藤樹先生の教えを学ぶ伝統行事として実施でき、児童も達成感を感じている。 総合的な学習の時間を中心に、学年の発達段階に合わせて実施。地域人材の活用による学習も進んでいる。(児童評価100%) 学校運営協議会での熟議を重ねるごとに、地域学校協働活動が充実してきた。学校の現状を知っていただく機会にもなっている。 保護者や地域ボランティアによるきめ細かな支援により、充実した教育活動が行えた。学校地域連携カリキュラムを年度末に更新していききたい。	A A A A	藤樹先生の教えを学ぶ伝統行事として継続・発展させていく。 藤樹先生の教えを道徳科や総合的な学習の時間に地域教材として積極的に取り入れる。 今後も協議会での熟議を行い、地域連携の取組充実を図る。 学校地域連携カリキュラムの更新と保護者ボランティアの発掘を行う。	・中江藤樹生誕の地にある小学校として、様々な取組がされており、心強い思いである。学んだことを一生活かしてほしい。 ・藤樹デーや大洲小との交流会など、青柳小ならではの学習はどれも良いので継続していただきたい。 ・普段の生活の中で中江藤樹の教えを意識できるように、「五事を正す」「徳、言、視、聴、思」を低学年でめわかる言葉で示してはどうか(例えば児童会テーマなど言葉遊びをみなで考える)。 ・わくわくタイムでは、地域の方の長けた技術を披露していただき、子どもたちにいろんな活動に取り組んでもらえて良かった。

総	評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校関係者評価 ・学校地域連携カリキュラムは、コンパクトに学校の1年間活動が凝縮された広報活動紙である。行事紹介や行事の写真も多く挿入で見やすい。また、地域掲示板での掲示や児童の自筆によるチラシで「掃除の日」の広報ができ、多くの保護者や地域の方の参加による「きれいな学校」づくりに取り組むことができていると思う。 ・中江藤樹生誕の地である小学校として様々な取組がされており、藤樹先生の教えを学んでいる。テレビ会議システムでの大洲小学校との交歓会など『青柳小学校ならではの行事』に引き続き取り組んでいただきたい。 ・創立150周年事業では、学校全体が丸一となって劇や合唱などに取り組んでいたが、地域の人も多くの方が楽しみました。また、漫画家古本ゆうやさんの記念講演では、「夢を叶える努力の大切さ」を感じ、楽しませていただきました。大変ご苦労様でした。ありがとうございました。 ・校内の先生方と意見交換しながら学校地域連携カリキュラムの見直しができ、より良いものへと改訂していただくことが良かった。保護者を中心に、さらに地域の方へ活動の輪を広げていけるよう今後も工夫していきたい。 ・文部科学省の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の推進校として、中江藤樹にもつわる教材を通して、道徳規範の学習に取り組まれました。今後も道徳教育の研究に取り組んでいきたい。 ・学校教育目標の具現化に向けて、「良知に生きる」を大切にしながら教育活動が行われている。読書の継続、書くことの充実を全校的に進めつつ、リーダーの育成を踏まえた集団づくりを行う必要がある。		B	・藤樹先生の教えを学校教育の中核に据え、これまでの『青柳小学校ならではの行事』のみならず、日常の学校生活の中でも藤樹先生の教えを意識させ、実践につなげられるような取組をしていく。また、道徳科や総合的な学習の授業でも中江藤樹の教材活用について研究していく。 ・文部科学省の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の推進校として、中江藤樹にもつわる教材を通して、道徳規範の学習に取り組んだことを活かし、今後も道徳教育の研究に取り組む。 ・読書活動については、朝読書を継続し、読書記録を残すことを検討していく。地元の図書館との連携を図り、ブックトークの継続や図書館訪問を増やしていく。また、家庭での読書習慣の定着を図るために、PTA研修部主催の「読書カレンダー」に加えて、定期的に30分ほどの「親子読書タイム」のような取組を設定するなど、家庭と連携した取組も検討していきたい。 ・次年度以降も「学校地域連携カリキュラム」に基づく地域学校協働活動の更なる見直しを図り、カリキュラムを「地域とともにある学校づくり」の重要なツールとして保護者や地域に広報し、協働活動の充実を図っていく。今後は、現在支援して下さっている地域ボランティアだけでなく、保護者に活動への参加を呼び掛け、ボランティアを増やしていく。協働活動がボランティアや学校職員にも過度な負担にならないよう、持続可能な活動として定着できるように留意したい。 ・職員同士の同僚性が高く、児童や保護者、地域から信頼を得られる学校づくりに努めてきた。いじめ未然防止の日々の取組など今後も引き続き丁寧にやっていきたい。

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

(様式1)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立本庄小学校

学校 教育 目標	校訓「たくましい子 本庄の心」 地域の願いや期待を受け止め、自らの未来を切り拓こうとする意志と能力を持つ子どもの育成	昨年度の評価概要 ・評定は、もっと高い評価で良いのではと思う。指導や達成状況を踏んでいくと、学校だけでなく家庭での改善や地域との連携が必要になる。指導にわたる分析がなされているので、来年度につなげてほしい。 ・JRCの取組など、子どもたちの成長ぶりは喜ばしい。また、協働的な学びに子どもたちが楽しく取り組む様子から、児童や地域の教育に合わせた様々な授業づくりがなされている。 ・高齢化が進む地域にあっては、子どもたちが地域の行事に参加し、元気を浴び健康な笑顔を見せてくれることは、地域の大人たちの心を和ませることであり、とても喜んでいる。また、「ふるさとが好き」という意識がある子がたくさんいる学校は、ありそうでなかなかないと思う。このままその気持ちを持ち続けてほしい。 ・詳細は分からないが、小中合同授業研究の到達目標50%に対し、達成が9割の希疎を自事者の教職員がどのように受け止めているのかも説明の責任がある。 ・評価に課題が見られる項目については、卒業生の振り返りが必要なものもある。概して子どもにとって、最も影響力のあるお手本として、しっかりとした背中を見せれば、子どもはそれに倣って成長していくだろう。	中期的目標 ○基礎基本の充実を図り、思考力・表現力を伸ばす。 ・読み解く力を発揮して学びを深める授業づくりを行う。 ○自ら考え、ともに学び合う力をつける。 ・自らの志を実現しようと努力する意欲を育てる。 ○豊かな心、たくましい体を育てる。 ・様々な体験を通して、心身ともにたくましい本庄っ子の育成を図る。
----------------	---	---	---

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標） 数値は「よくそう思う」（強肯定）の割合	達成状況 数値は「よくそう思う」（強肯定）の割合	評定	改善方策	学校関係者評価
学力向上のための力点	学習意欲の向上 「学習内容がわかる」 75%以上 「学習は将来役に立つ」 75%以上	児 童：学習内容が分かる。(56%) 学習したことは将来役に立つと思う。(76%) 保護者：子どもは授業が分かり、楽しいと感じている。(26%)	B	児童の実態を把握し、教材研究を行うことにより、児童が学ぶ楽しさを実感でき、学習内容が「わかる」授業づくりになる。	・家庭学習では、計画実行できる力が欲しい。 ・学習したことが将来役に立つと思う児童が目標を上回ることは、学校に関わるものとしては非常に喜ばしいと思う。
	授業改善 意見の交流や深め合う授業づくり 70%以上 ICTを効果的に活用した授業の実施 75%以上	児 童：友だちの意見を聞き、自分の考えと比べたり、深めたりしている。(45%) 教職員：授業づくりの工夫（意見の交流や深め合う場）(43%) ICTの効果的に活用した授業の実施 (47%)	B	校内研究、小中合同授業研究を推進し、教職員も積極的に意見の交流をして自らの学びを深め、授業改善を図る。	・ICTを効果的に活用した授業の実施率が低い。研修が必要。また、情報モラル面でも注意が必要である。
	家庭学習の習慣の定着（宿題＋自主学習） 低学年20分、中・高学年10分×学年 50%以上 親子読書の実施率 30%以上	児 童：家庭学習は、学年の目標時間を達成(41%) 学年の目標冊数に到達するよう進んで読書(43%) 保護者：決まった時刻に目標時間以上家庭学習ができている。(21%) 親子読書の実施率 (21%)	B	読書の楽しさを感じる工夫を行ったり、家庭学習の習慣の定着に課題のある児童には、保護者と丁寧に連絡をとったりする。	
たくましい心身を鍛えるための力点	基本的な生活習慣の定着 「早寝・早起き・朝ご飯」「挨拶・返事・靴揃え」の習慣 70%以上	児 童：「早寝・早起き・朝ご飯」ができています。(46%) 教職員：「早寝・早起き…」「挨拶・返事…」を継続的に指導(35%) 保護者：「挨拶・返事・靴揃え」の習慣が身についている。(11%)	C	基本的な生活習慣が身につくよう、教職員に共通理解を図るとともに、PTAと連携し、保護者への啓発に努める。	・生活習慣は、家庭での親の姿が子どもの鏡になっている。保護者への教養を培うことが効果的ではないかと。学校は、意識して指導していると思う。
	向上心や忍耐力の育成 自己目標（遠泳、マラソン等）の達成に向け努力できた 75%以上	児 童：運動会やマラソン大会などに一生懸命取り組めた。(70%) そうじは黙って、時間いっぱいまで頑張っている。(45%) 学校をよりよくするために目標をもって取り組めた。(53%)	B	子どもたちは、目に見える目標に向かって努力はすることはできる。目に見えない目標も達成感を持たせられるようにする。	・マラソン大会や運動会で目標に向かって自主的に取り組んでいる素晴らしい。
	安全・安心な学校づくり 「学校は安心できる場所だ」 75%以上 効果的な避難訓練や防災教育の実施	児 童：学校は安心できる場所(67%) 安全に気をつけて行動(67%) 廊下を歩かず右側通行(22%) 保護者：学校は、健康や安全への配慮ができている。(50%) 分かりやすいお便りや連絡(100%)	B	「子ども安全点検」を行い、自ら安全な行動ができて児童の育成に努めるとともに、警察や消防と連携し体制を整える。	
豊かな心を育むための力点	個性を尊重し、つながり合う集団づくり 学級が楽しい、学校へ行くのが楽しい 75%以上 自分にはよいところや得意なことがある 75%以上	児 童：学校生活は楽しい。(55%)自分には良いところがある。(64%) 友だちと活動するときは、協力してできた。(59%) 保護者：子どもの良いところを見つけて褒めている。(20%)	B	定期的に行っている児童アンケートや教育相談に子ども一人ひとりに寄り添った丁寧な支援に心がける。	・JRCの活動や道徳授業のおかげで本より、一人ひとりに寄り添った丁寧な支援に心がけてもやさしく仲間が良い。
	自発的で奉仕的な活動の推進 「気づき 考え 実行する」の実践 75%以上	児 童：「気づき 考え 実行する」ことができた。(51%) 教職員：JRC活動が良好な人間関係を築くことに効果あり(31%)	B	子どもの行動の委容や成長に結びつくよう、子どもの発想を生かし、工夫しながら継続した取組としていく。	・道徳の授業で教職員はとても工夫した授業を行っている。実践に生かすことが課題である。 ・友だち間でお互いの良いところをみつめて認め合うことが学校や家庭・地域でも浸透してきた。
	健全な倫理観の育成 考え議論したくなる道徳科の授業づくり 50%以上 人権週間における人権学習の取組	児 童：道徳の勉強は楽しい。生活に生かしている。(51%) 教職員：価値観を深め合えるよう道徳の授業を工夫した。(47%)	A	「自分事」としてとらえ、「考え議論する」道徳科の授業改善とともに、全校話し合い活動に取り組むことで、実生活へ学びを生かせるようにする。	
地域とともにある学校	地域や保護者との連携（横のつながり） 学校運営協議会・地域学校協働活動の充実 学校・学年だより、ホームページ等により、学校や児童の様子が分かる 50%以上	児 童：地域の人にあいさつ(66%) ふるさと本庄が好き(67%) 教職員：地域の力を取り入れた教育ができている。(75%) 保護者：お便りや連絡により、学校や児童の様子がよくわかる。(40%)	A	学校運営協議会の熱議を通し、地域学校協働活動との一体的な推進を図る。お便りや連絡が保護者に必ず目を通していただけるよう、配信アプリなどの利用を検討する。	・地域が好き、本庄が居心地が良いという部分は地域の人たちの協力の賜物と喜ばしい。 ・少人数であるからできることを充実させていけばよいと思う。
	小中一貫教育の推進（縦のつながり） 中学校進学への不安を感じていない児童 75%以上 小中合同授業研究の効果を感じている教員 50%以上	児 童：中学校進学への不安を感じていない。(20%) 教職員：他学年や中学校を意識した系統的な指導の展開(39%) 小中合同での研究会は効果が期待できる。(13%)	B	中学校との引継ぎを強化する。また、中学校のスクールカウンセラーの心理授業を取り入れ、児童の課題とした不安の軽減を行う。小中合同研究会の持ち方の工夫と自らの研究として取り組める工夫を行う。	・現状で十分と考ええる。ボランティアを含めこれ以上の負担は逆効果にならないか心配。

学校関係者評価	総 評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・授業では、全員の意見を引き出す工夫もされていて大変良い。また、自分の思いが口に出せる環境、人の弱さやつらさを一緒に考えてあげられるように導いておられる。継続してもらいたい。 ・駐在所の方に毎朝、子ども達を見守っていたら、学校の安心安全が、担保されている。あいさつも、温かい挨拶ができるようになった。 ・学校、児童、学運協の熱議はあるが保護者と学運協委員の意見交換の機会がないことは残念。また、地域のつながりやボランティア活動等とも上手に結び付けられるとよいように思う。 ・環境が変わっても自分の信念を変えようとする教育とは。モデルとなる身近な大人はどうあるべきか。卒業後も地域との関係性が継続できるような活動ができると良いと思う。 ・縦割り活動を増やし、上級生が下級生に接する点（優しく、丁寧に説明）を伝承していけない。 ・体験、経験させるような活動が多い。人と触れ合うことで温かさを感じることができ。 ・子ども達が地域で活躍の場を作らせていただいていることは、子ども達の人間形成にとって非常に良いことである。 ・児童との意見交換に参加して、子ども達の発言内容に感心した。思いや意見の理由付けがしっかり言えていた。日々の学習の積み重ねだと感じた。 ・読書の時間の確保だけでなく、図書室に様々なジャンルの本を置き、子どもが興味を持つことができ、将来の夢につながるような蔵書にしてほしい。	B	・保護者世代のボランティア活動への参加をを広げ、地域とのつながりをより一層深めていくため、まずは、PTA総会時や地区で行われる地区懇談会で、学校運営協議会メンバーに参加していただくなどし、保護者の思いを聞く取組からはじめ、つながりを持ていく。また、自己肯定感を高めること、生活習慣を整えることの必要性についてPTAやひびき合い活動、懇談会などで対応を検討しながら効果的な取組をしていく。 ・家庭学習については、自ら計画的に取り組めるようにし、家庭との連携を深めていく。 ・読書活動については、子どもたちが図書室を活用できる機会を増やし、週末読書などの取組を進め、家庭との連携を深めていく。 ・世代の違う人と交わることは、学ぶことが多いことから、子どもたちが様々な人と交流が持てるよう、縦割り活動や地域の様々な方との交流活動などを継続していく。 ・授業の中でも、それぞれの子どもたちが自分の考えを素直に話することができるように、安心して学ぶ環境を整える。また、ICTの有効的な活用についても今後、教師間で共有しながら深めていく。 ・JRC活動などの特別活動を充実させ、子どもの自治的な力を育てる。 ・警察、消防など外部機関と今後も連携を引き続き行い、アドバイスを受けながら、安心安全な学校をつくる。

4段階評定（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

(様式1)

令和6年度 学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立高島小学校

学校 教育 目標	確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成 ～主体性の育成～	昨 年 度 の 評 価 概 要	中 期 的 目 標	
		〔令和5年学校評価 概要〕 ・全体的に教育環境がよく整備されており、子どもたちは伸びやかに学校生活を送っている。 ・「学校・直・地域」の関係ではなく、推進員さんの努力により、「支援から協働」へのよい関係が育ってきている。さらに、「地域はもう一つの教室」として、子どもも大人もともに「多様な人となりが」「多様な経験」ができる場を関係機関と連携しながら、「子ども」を真ん中にして、「学校」「家庭」「地域」が協働して進んでいるように思う。 ・小中学校、PTA、地域が連携して土台となり、その中で具体的な学び、人との関わりを通して子どもは成長していると感じる。来年度も、土台としてのつながりを強めながら、子どもたちの生きる力の向上について考えていきたい。 ・行事だけではなく、日常の学校生活において、あらゆる地域人材が学校に溶け込んでおられ、地域の子どもを地域で育てる機運が醸成されていると実感している。今後は、SNS等を通じて、取組の経過も地域の人々に細かく伝わり、それに對するフォローが得られるような体制ができるとよいと思う。	< 中期的〔3年間〕目標(3年目) > ○「学ぶ力の向上」をめざし、個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善を進める。 ○義務教育9年間の学びの土台となる基礎基本の習得を徹底し、主体的な学び方身につける。 ○児童理解を深め、主体的体験的な活動を重視し、ふれあいを基調とした教育活動を進める。 ○多くの人の関わりを通じ、自分の個性や可能性を信じ、よりよく生きようとする「志の教育」を進める。 ○家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。	
評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	改善方策	学校関係者評価
【確かな学力の力点】 ●子どもを真ん中においた個別最適な学びと、協働的な学びになる授業改善 ●読書活動の活性化 ●特別支援教育の充実 ●自主学習の習慣を確立	中学校と一体となって授業研究やOJTに取り組み、思いを深め、達成感のある学びを実現する指導力の向上に取り組み。【月1回のOJTの実施100%（教師）】 ・朝読書の充実や、読書環境の整備を進め、読書に親む児童を増やす。【読書冊数目標到達70%（児）/50%（保）】 ・ゆめノートを活用した家庭学習の充実に取り組み。【家庭学習の時間を達成した児童が85%以上】	「学び合い」の日常化を進めるべく、小中教職員混合のグループ編制を行い、授業研究に取り組んだ。研究の取組は「人権教育における授業と教材に関する研究集会」で発表し、指導助言をいただくことができた。「学び合い」の日常化には引き続き、研究実践や教職員の意識化が必要である。 【ベア・グループ学習 教職員75.0% 個に応じた指導 教職員100%】 読書ボランティアによる読み聞かせやお話会の実施、図書室やお話しルームの環境作りなど、児童が図書に親む機会を充実している。また寄贈や市立図書館との連携で、蔵書も増やすことができた。【児童62.3%/保護者15.4%】 家庭学習の手引きや学年、個々の状況に応じた課題の工夫を行っている。【家庭学習を頑張っている 児童79.3%/保護者37.4% 教職員87.5%】	A B B	・どの学年の子ども達も意欲的に学習に取り組み、挨拶や言葉遣いも丁寧である。 ・朝読書の継続で、本のある生活が当たり前になっている。授業を通じて読書の誘いを増やすとよいのではないかと。 ・夢ノートについては低学年に使用し方見本を提示するなどの工夫があるように。
【豊かな心の育成の力点】 ●自分事として生き方を見つめる道徳教育の推進 ●望ましい人間関係を土台にした生徒指導の推進 ●主体性を引き出す児童活動の推進	・他の教育活動と連携した道徳カリキュラム(別様)を着実に実施し、日常に立ち返る道徳教育を進める。 ・文化芸術や自然体験、栽培活動、多様な人とのふれあいを通じて、豊かな情操を養う。 ・中学校と連携した特別活動の活性化を図り、児童の主体性を引き出す活動に取り組むとともに、望ましいリーダーの育成を図る。【学校生活の楽しさ:80%（児）/75%（保）】	年間計画に基づいて、道徳科の授業を実施している。学級が直面している状況や課題に応じて、適時取り扱う内容を変更するなど柔軟に対応もしている。【道徳の授業がためになる 児童92.8%】 学校地域連携カリキュラムに基づき、校区の自然や環境を生かした学習に取り組んだ。また多くの地域ボランティアの皆さんのおかげで学びを豊かにしていただくことができた。 第1ステージの「ちびっこフェスティバル」に交流活動、第2ステージの「高島学園マルシェ」による体験学習を中心に児童生徒の主体性の育成に取り組組んだ。「高島学園マルシェ」では、各ブースの計画、準備、実施の活動を通してステージ活動が活性化した。また、中学校文化祭への参加や陸上記録会に向けた中学生との合同練習等にも取り組んだ。【学校が楽しい 児童93.6%/保護者91.9%】	A A A	・道徳教育はすべての教育活動を通して行ないながら児童の道徳性を育んでいくことを共通理解し、共通実践していく。 ・学校地域連携カリキュラムの内容について、地域学校協働活動推進員さんの意見も踏まえ、児童に実りある、持続可能な内容になるよう改善していく。 ○これまで実施している縦割り活動や中学校との交流活動とともに、教職員の柔軟な発想も取り入れながら、より魅力ある活動に高めていく。その成果を子どもがどう育ち、高まっているのかについて教職員が共有することを大事にする。インターネットリテラシーの育成はこれからの重要な教育課題である。タブレットの使い方を通じて指導を徹底する。
【豊かな人間関係を結ぶ力の育成の力点】 ●相手の立場を尊重し、人権意識の高い、いじめを許さない集団づくり ●礼儀正しい節度ある生活態度(あいさつ、時間を守る、掃除)の育成	・児童集会や行事等を通じて、友達や多様な人々との交流の機会を増やす。【学校生活の楽しさ:80%（児）/75%（保）】 ・人権意識を高める指導に加えて、中学校と協働した児童生徒の主体的な活動を通して、いじめ未然防止に取り組む。【いじめがなく学校生活が楽しい95%（児）】 ・真面目で誠実に学校生活を過ごす態度を育成する。【あいさつ、時間、そうじ85%以上（児童）】	1～6年生の縦割り活動や、ステージでの活動、委員会活動、クラブ活動など異集団による活動を充実させることができた。特に6年生では、すべての児童に活躍の場を与え、配慮しながら取り組ませた。【学校が楽しい 児童93.6%/保護者91.9%】 人権の日の全校放送や講話をはじめ、小さな出来事でもそれを学年や全校で考える指導を行った。【学級の友誼を大切にしたい 児童100%】【自分によいところがあふれる児童82.9%】 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止に努めている。いじめを確認した際には、些細なものでも、早期の組織対応を行っている。【いじめ認知件数R6:11件 R5:11件 R4:3件】 向上心をもち、真面目に取り組む児童が多く、落ち着いた生活することができている。【あいさつ 児童89.9%/そうじを頑張る 児童95.8%】	A A A	・いじめにつながるようなことがあれば、早期に対応していることは評価できる。担任に相談できない児童も一定数いるため、カウンセラーの対応も必要と考えられる。何かあればすぐに向き合い、対応すると周知することで安心感、信頼関係を作り、不登校を防ぐアプローチを行っていく。 ・挨拶はなぜ自分からする必要があるのか等、異年齢集団における主体的育成の側面からも指導が必要なのではないかと。
【健康な心と体の育成の力点】 ●児童理解を土台にして、自己指導力の向上をめざす生徒指導の推進 ●命を大切にし、健康で安全な生活実現を目指し、行動できる資質能力の育成 ●基本的生活習慣の確立と指導の充実	・生徒指導の3機能を意識した教育活動を展開し、一人ひとりの児童に居場所がある学級づくりを進める。【学校生活の楽しさ:80%（児）/75%（保）】 ・児童理解のための教育相談の機能を充実する。【困っていることを先生に相談できる85%（児）】 ・生活状況の把握と望ましい生活習慣の定着に取り組む。	授業づくりの基盤として自己決定の場を提供し「自己存在感の感受の促進」「共感的な人間関係を育成」を頃から意識するよう、職員に指導している。管理職が教室参観を行いながら、適宜確認している。【学校が楽しい 児童93.6%/保護者91.9%】 児童理解のためのアンケートを学期毎に実施している。その結果をもとに個別面談をおこない、具体的な実態把握に努めている。不登校傾向児童や保護者にも丁寧な対応を行い、関係機関とも連携している。【先生は相談しやすい 児童85.2% 保護者77.2%】 各学級における指導、保護だより等での保護者への啓発に努めた。	A B B	○児童の人権を大切に、安心して生活や学習することができるよう、研修の機会を設けるなど、教職員の人権意識のさらなる向上に努める。 ○学校と保護者がしっかりとつながり、理解や協力を得ながら指導していくことができるよう保護者への連絡や関係づくりを努める。 ○家庭における食事や睡眠、スマホやタブレットの使用状況など、児童の状況の把握に努め、生活習慣や意識向上に向けた啓発に努める。
【小中一貫教育推進の力点】 ●学園授業研究会の充実 ●小中教員の交流指導による連続した指導の充実 【地域とともにある学校づくりの力点】 ●学校運営協議会と地域学校協働活動の連携、一体化 ●協働して地域全体で子どもの成長を支える風土の醸成	・中学校と一体となって授業研究やOJTに取り組み、思いを深め、達成感のある学びを実現する指導力の向上に取り組む。 ・小中教員の交流授業を進め、小学校の教科担任制と中学校での複数指導の拡充を図る。 ・学校運営協議会と協働し、学校地域連携カリキュラムによる教育活動を推進する。 ・PTAと協働し、学習習慣の定着に取り組む。	「学び合い」の日常化を進めるべく、小中教職員混合のグループ編制を行い、授業研究に取り組んだ。研究の取組は「人権教育における授業と教材に関する研究集会」で発表し、指導助言をいただくことができた。「学び合い」の日常化には引き続き、研究実践や教職員の意識化が必要である。 【ベア・グループ学習 教職員75.0% 個に応じた指導 教職員100%】 小中学校教員による日常的な専科指導(理科、音楽)に加え、学期ごとに実施した小中一貫教育WEEKでは、小学校教員が中学校で、中学校教員が小学校で授業を行うという新たな実践を試みた。【教職員交流の充実 教職員75%】 学校運営協議会の協力と地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、多くの地域人材の協力を得て、学習の幅を広げ、内容を深めることができた。 PTAについて大きな方向転換となる1年であった。今後のあり方について、学校と保護者の関係性が希薄にならないよう、サボーターと相談しながら進めていく。	A A A B	○学園一体となった学校運営協議会により、小中一貫の視点で多くのご意見をいただき、学校経営につなげることができた。引き続きご意見をいただきたい。 ○学校地域連携カリキュラムをもとに地域人材の協力を得ることができ、児童の学びも深く、豊かになっている。引き続き協力が得られるよう、地域学校協働活動推進員さんとも連携しながら努めていきたい。 ○PTAから新たな形でスタートとなる。それぞれの思いを十分出し合い、子どもたちのためになる取組を創っていくたい。
学校関係者評価	総評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点	
・全体として、学校の取組は小中連携して様々な角度から子どもたちにアプローチできている。子どもたちの豊かな育成に寄与できている。 ・副校長小中一貫校の特性を最大限生かし、小中教職員が協働して授業研究や授業交流に取り組む、子ども達も意欲的に学習している。また、地域学校協働活動推進員さんのコーディネートにより、たくさんの地域の大人や保護者の姿が学校にある日常が増えた。周りの大人や先生、身近な先輩からの励ましや自分が大切にされているという感覚が周囲への信頼や安心につながっていると思う。今後も、小中一貫教育、学校地域連携カリキュラムを軸として、先生、児童、保護者、地域のみなさんが目標を共有し、協働できると思う。 ・地域の様々な人材に支えられ、多様な角度から学校生活のモチベーションを見出していることが子ども達の様子から伺える。人々減少、少子高齢化、地域におけるつながりの希薄化が課題の現代社会において、これは素晴らしい取組であると感じ、これからは増えられ、これからも推進してほしい。 ・安定した学校環境の中で、子ども達が生き生きと学び、成長している姿が見られる。教職員の意欲も高く、向上しようとする研究に取り組んでいることが感じられる。その良さを保護者や地域に発信し共有して、より良い教育の場にしてほしいと思う。	A	・学園における小中一貫教育や地域協働の取組、子どもの成長、成果などを保護者や地域へ分かりやすく広報することで、理解をより深めてもらうとともに、取組のさらなる充実につなげる。 ・学校運営協議会や保護者の組織と連携しながら、保護者が学べることのできる機会を設定し、意識向上につなげていく。 ・現在の取組について教職員の負担感も配慮しながら、工夫改善を図り、充実を目指す。 ・年度末において、目標の達成度がより分かりやすいものとなるよう指標やアンケート項目を見直し、改善を図っていく。		

4段階評定(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

学校 教育 目標	【目指す学校像】	【めざす子ども像】
	◎笑顔で登校、笑顔で学び、笑顔で下校	◎考える子 学力の育成
	◎一人ひとりの居場所がある「安心」でできる学校	◎がんばる子 主体性の育成
	◎自分もやってみよう！「意欲」がもてる学校	◎やさしい子 豊かな心の育成
	◎子ども・教職員・家庭・地域 みんなで「協働」する学校	◎きたえる子 たくましい心身の育成

中 期 的 目 標	① 努力力の育成 ② 知的好奇心を高め、自主的、主体的に学ぶ態度を育成する。 ③ 豊かな心の育成 ④ 『人と関わる力』を伸ばし、『気づく力』を身につけ『熱戦する力』『やり切る力』を育成する。 ⑤ たくましい身の育成 ⑥ 自分の体力の向上に関心を持つとともに、安全を確保することの意義と知識・技能・態度を身に付けさせる。危機管理意識を高める。 ⑦ つぎつぎと意識した18年間を見通した小中一貫教育の推進、学校・地域連携カリキュラムの実践と学校に対する地域の理解や関心を一層高める。 ⑧ 挑戦力・学習意欲力・課題解決力の向上を目指す活気のあふれる転換期集団の構築
----------------------------------	---

学校関係者 評価	総 評		評価定	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校関係者 評価	○児童・保護者のアンケート結果もよく、家庭学習に関する項目は大幅に高くなった。日頃の学校の取組の結果である。		B	○子どもを主にした授業づくりや「個別最適な学び」と「協働的な学び」の工夫、既習内容もかしこみ課題解決学習の工夫、読書活動と家庭学習の充実、パワーアップ教室の工夫を行う。さらに効果的なICT活用を心掛け、学習規律を重んじ、基礎・基本の定着と意欲的・主体的に学ぶ姿勢を育むなど引き続き重視する。また、自己表現力を高め、様々な考え方に触れ、より深く学ぶ（海橋塾）の場を設定して、読解力への育成に繋げる。
	○読書ボランティアや読み聞かせ、家読の日などの取組は、保護者とも協力しながら今後も継続してほしい。			
学校関係者 評価	○今後も、児童、教職員、保護者、地域との良い関係づくりと一人ひとりを大切に育てる心地の良い活気ある学校にしていきたい。		B	○主体性ややる気を出すために、常に子どもを見守り、励まし、支援や指導をすることを継続する。また、自治会活動に参画し、心温かい思いやりのある豊かな人間性を育て、キャリア教育が自分の生き方学習になり、将来に役立つという子どもの意識を高める指導を充実させる。凡事徹底の風土、家庭の協力を得ながら安全に関する体験や深い学びを実現する。
	○交通安全教室や道路交差点を学ぶことで、児童自ら安心安全に行動できる力を育ててほしい。			
学校関係者 評価	○学校経営方針である「英語で登校、英語で学び、英語で帰る」をスローガンに掲げ、子どもが主体の学校づくりを願う。		B	○「目指す子どもたちの姿」、児童教職員、地域と共有することにより、学校地域連携力・リキレムを発信することにより、より多くの学校と連携を求め、先頭に学習支援をしていただくことを重視する。
	○学校運営協議会で、教職員全員が主体的な機会を今後も継続してほしい。学校・地域連携力・リキレムの実施、改善、改修、保護者への発信をしながら、多くの方向に学校・読書ボランティアに参加していただくことを願う。			

学校関係者 評価	① 児童・保護者のアンケート結果もまた、家庭学習に関する項目は大幅に高くなった。日頃の学校の取組の結果である。	B
	② 読書ボランティアや読み聞かせ、家読の日の取組は、保護者とも協力しながら今後も継続してほしい。	
	③ 今後も、児童、教職員、保護者、地域との良い関係づくりと一人ひとりを大切にして居心地の良い活気ある学校にしてほしい。	
	④ 交通安全教室や道路交通法を学ぶことで、児童自らが安心安全に行動できる力を育ててほしい。	
	⑤ 学校経営方針である「笑顔で登校、笑顔で学び、笑顔で帰る」をスローガンに掲げ、子どもが主体の学校づくりを願う。	
学校関係者 評価	⑥ 学校運営協議会で、教職員全員が熱意をもった機会を今後も継続してほしい。学校・地域連携力リキユムの実施、改善、保護者への発信を怠らぬ。多くの子どもに学校生活ボランティアに参加していただくことを願う。	B
	⑦ 児童・保護者のアンケート結果もまた、家庭学習に関する項目は大幅に高くなった。日頃の学校の取組の結果である。	
	⑧ 読書ボランティアや読み聞かせ、家読の日の取組は、保護者とも協力しながら今後も継続してほしい。	
	⑨ 今後も、児童、教職員、保護者、地域との良い関係づくりと一人ひとりを大切にして居心地の良い活気ある学校にしてほしい。	
	⑩ 交通安全教室や道路交通法を学ぶことで、児童自らが安心安全に行動できる力を育ててほしい。	

(様式1)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立新旭北小学校

学校 教育 目標	自ら考え 変化に挑む子」の育成 “新たな課題に向かい、 アイデアを出し合い、高め合い、 支え合う子ども”	昨 年 度 の 評 価 概 要	○登下校の見守りを始め、学校内外の様々な場面で子どもたちの笑顔、素直な反応、そして時には感謝の言葉をもらい、これらが地域住民としての喜びになっている。それと同時に、大人も子どもたちもしっかり反応することが必要だと考える。子どもの良さを見つけ認める行動を返していくべきである。そのような場面を多く生み出すために体験活動は有効に働く。体験によって学び、体験によって交流・コミュニケーションが生まれ、地域住民が子どもたちと、またすべての職員とコミュニケーションを密にすることで、今以上に支援が機能する。 ○子どもたちが、相手意識を身に付けられるようになってきたからこそ、学習に地域のヒト・モノを活用することを通して、知・徳・体のあらゆる面を伸ばせる環境を整えていきたい。	中 期 的 目 標	・豊かな人間性、社会性の育成と学力向上 (生活習慣・学習習慣の確立) ・教員の授業力の向上 (授業改善と個に応じた指導) ・地域とともにある学校づくりをめざす (学校運営協議会 地域学校協働本部)
----------------	--	--------------------------------------	--	-----------------------	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評定	改善方策	学校関係者評価
◎やさしい子 ●思いやりのある、差別やいじめのない学校づくり(たてわり活動・あいさつ運動) ●読書活動の充実(家読、読み聞かせ) ●保護者との対話、きめ細かな個別対応 ●基本的な生活習慣と行動様式を身に付け、時と場に応じて行動できる子	よりよい集団づくりに努め、仲間はずれやいじめをしない、許さない。100 読書指導により読書活動を推進し、進んで読書をする子の育成に努める。70 相談・連絡しやすい学校づくりに努める。100 言語環境を整え、時と場に応じた言葉遣いをする。進んであいさつと素直な返事をする。80	毎週全職員で時間を設定し、児童情報の共有に努めた。(いじめ・仲間外れしない)(児)94%、「友達を支える雰囲気がある」(保)93%。「いじめに組織対応している」(教)80%。児童・保護者との対話に心がけ、いじめの定義に沿った認知に努めている。 図書ボランティアによる環境整備を継続中。「ふたから読書活動」に取り組んでいる(児)60%(保)40%「読書指導に工夫」(教)70%。少し向上はしているものの全般的に低迷している。家庭で読書することや少ない。読み聞かせの活動が継続できたことも影響している。 「困ったことを友達・先生に相談できる」(児)88%「担任や学校に相談できる」(保)87%。些細なことであってもその日うちに保護者に連絡をとるように各担任は心がけ、相談がしやすいという意識はやや増加した。 「適切な言葉遣いができる」(児)86%(教)63%。「自分からあいさつができた」(児)78%(保)65%(教)指導している93%。言葉遣いについては昨年度とほとんど変わらず。言葉の使い分けができていない子が目立つ。あいさつについての意識は昨年度よりやや低下している。	B B A B	学校いじめ防止方針の共有・確認の場を適切な機会に行い、早期対応、組織対応、記録の保管を徹底させる。ぽっかぽか集会以児童の意識を高める。 静かな朝読書を徹底する。学級文庫を入れ替え、読書環境を整える。読み聞かせを継続する。家庭への持ち帰り読書をさらに促進する。 家庭と互いに連絡し合える関係づくりに努める。通信・連絡帳で子どもの様子を伝えていく。積極的に保護者との対話に努め、信頼を引き出す。 教師も進んで挨拶を継続し、よい雰囲気を保つ。キャプテン委員会を中心に取組の強化。言葉の使い分け等全職員で統一して根気強く指導。	たてわり活動は、児童にとってよい経験となり、自主自立につながる。読み聞かせは続けていくべきである。登下校時のあいさつができてきている。児童の情報共有の後に指導共有も必要である。人権集会では、各学年の取組が堂々と発表できた。キャプテン委員会の今後にますます期待する。
◎かしこい子 ●学習規律を整え、秩序を大切にしたい授業づくり ●ペアやグループで主体的に学び合う言語活動の充実 ●「読み解く力」を重点においた授業づくり ●ICTを活用した学び方改革 ●授業とつながる家庭学習 ●郷土の良さを知る学習(藤本太郎兵衛、針江かばた、高島晒)	学年に応じた学習規律を身に付け、「話す」「聞く」のマナーの確立を図る。90 言語活動を充実し、読み解く・考えを深める活動を通して、児童が主体的に学べるよう学習方法を工夫する。80 内容を工夫して、家庭学習を学年×10分(1・2年生は30分間)行い、学習の定着を図る。80 楽しい・わかる授業を心がけ、個別の能力を見とり、一人ひとりを伸ばす学習に努める。90 郷土への認識を深め、さらに知りたくなるような郷土愛が育つ学習を仕組む。90	「学習規律が定着し、学習にメリハリがある」(教)70%。「話す姿勢・聞く態度が身についている」(児)82%。「グループ・ペア」といった姿勢の合言葉を用いるなど各学年で研修している。「能動的に聞く・話す」のために相手への伝え方の指導、語彙の獲得を課題と見ている。 「理解できている子8割以上」(教)-国67算58%。「理解している」国-児80%(保)84%算-児81%(保)82%。算数は昨年とさほど変化がないが、児童の国語の意識が低下している。国語科の授業改善が必要である。 「家の勉強がしっかりしている」(児)77%(保)65%。「家庭学習がほぼ1週間が有義義」(児)82%(保)58%。強化週間の保護者の意識を高めるための頻度や取組方法に工夫が必要である。自主学習への取り組み方についての指導、質の向上が課題である。 「授業改善に取り組む」(教)100%。「話し合いで考えを深めた」(児)86%。「自分の考えを出せた」(児)81%。授業改善にかかる意識は向上した。とくにICT機器のより効果的な活用に手ごたえを感じている。効果的な学習場面を見極めることが大切である。 「総合的な学習の時間は地域の実情を生かし、探究的な活動を展開できた」(教)100%。「物事に根気強く取り組んだ」(児)83%(保)74%。地域学校協働活動はじめての体験活動が教員の意識を向上させている。	B B B A A	全校統一や学年に応じた「学習のきまり」(態度・内容)を意識して指導。学習での聞く・話す活動の意識化(話し合い→まとめて発表)方式の強化。 引き続き教科担任制や複数指導を進めていく。タブレットは依存するのではなく、効果的な活用を意識して学習を進める。 家庭学習がほぼ1週間が開始までの自分の計画や終了時のふりかえりをしっかりと行う。効果的な自主学習について日常的に情報共有する。 ペア学習・グループ学習の場を多く設定し、学び合いの強化を図る。L-GATEでメソッドのテストを効果的に活用していく。 総合的な学習の時間の時間配分を工夫する。愛島の森活動のような継続的取組を大切に。郷土のことを学ぶ機会に地域人材を活用したい。	意見が発表できるグループ学習、ペア学習を行うことが児童にとって有効である。授業参観への学運協委員の参加を増やすべきである。担任はそれぞれ工夫してがんばっている。学年として共有する部分は大事である。学習のきまりの見える化が必要である。特定の地域に偏る活動よりすべての地域が動ける総合をめざしたい。みどプロの発表では、自信が癒えた。
◎強くてまじい子 ●体力アップ強化週間等、運動能力向上の全般的な取組(なわとび・マラソン等の取組) ●教育を通した健康な体づくり・「早寝早起き朝ご飯」の推進 ●遊びを通して仲間づくりと体力づくり ●安全に対する意識の高揚、感染症から身を守る行動様式の徹底	外遊び・集団遊びを推進し、『体力アップ週間』を設定し、児童の体力向上に積極的に取り組む。80 「早寝早起き朝ご飯」を推進する。90 スマホ・ゲーム・テレビは家で決められた時間内を守る。スクリーンとの適正な付き合い方を身に付ける。90 交通安全に気をつけた行動を身に付ける。感染症対策を徹底し、正しい行動を定着させる。100	「外遊び等体力が向上した」(児)84%「運動に親しみ体を動かそうとする」(保)78%。「児童の体力向上に取り組む」(教)92%。運動習慣の二極化はあるが、集団遊びや体力アップ週間は、運動の機会を与えるのに効果的である。冬は縄跳びの練習に熱心に取り組む児童が多い。 「早寝早起き朝ご飯の生活リズムがついている」(児)88%(保)83%(教)64%。家庭と学校の意識の格差がある。生活のリズム、特に就寝時刻が遅い子や、集団での登校に間に合わない子もいる。朝のスタートが気持ちよく始められない傾向にある。 「ゲーム等決められた時間を守っている」(児)85%。「テレビ・ゲームの時間を決めていく」(保)68%。約束事を決める家庭の割合は低下した。長時間使用による一方で、約束事が不要の家庭もあり、差が大きい。個人タブレットに依存する姿もある。 「交通安全・校内安全が図れている」(教)100%「交通ルールを守って登下校できる」(児)93%。肯定率は高いが、安全を通信した現状があり、危機感が乏しい。集団登下校には指導を要する。	B B C B	運動志向の二極化改善のため、みんな遊びを継続、係活動で活性化させる。なわとび等の技を動画に残し、学年を超えて共有し、運動意欲を刺激する。 生活改善の呼びかけを積極的に行う。スマホやゲームの依存についての学習を行い、朝起きられない、脳が目覚めない事態を知る。 情報モラル教育や学習者タブレットの使い方の指導をきちんと行う。「〇時まで」よりも「〇時まで」等の時間設定の工夫を試みる。 登下校指導は継続していく。着下歩行の徹底。委員活動等子どもどうしの呼びかけも行っていく。正しい手洗いの指導を徹底する。	スマホ、テレビ等の自主・自立ができていない児童が見られる。スマホを離せない大人が多い中、モラルや危険性についての学習が必要である。下校時の安全確保はスクールガードだけでは難しくなっている。北小らしさである田植え、縄跳び、スキー教室等は継続してほしい。人権の花運動には委員会が責任をもって取り組むた。
◎つながり響き合う教育 ●ヨコのつながり(地域と学校が一体となって子どもを育てる意識の醸成・地域住民の学校運営への参画) ●未来とのつながり(将来を見据えた教育活動の展開・社会や団体への貢献を感じ活活動の展開) ●タテのつながり(湖西中学校区での『学び合い』に視点を当てた授業・保育交流の推進)	学校運営協議会と「北小希望の会」による地域とともにある学校づくりを推進する。100 社会・集団への貢献を自覚する活動に取り組む。キャリアパスポートの活用により自分の未来を描く。90 湖西中学校区保幼小中一貫教育を推進する。90 タイムリーで分かりやすい学校情報を発信する。100	「学習意欲・希望の会の活動を理解している」(教)100%。学校運営協議会へ職員も参加し、教職員の意識は高くなっている。「北小希望の会」の活動がますます充実し、「のぞみひろば」、「みどりプロジェクト」の機能など、多くの住民に助けていただいている。 「たてわり活動は有意義である」(教)93%(児)84%。「特別活動は児童が自主的に行う」(教)92%。「係・委員会活動はみんなのために工夫できている」(児)82%。感染症対策が落ち着き、たてわり活動の機会が増える。意識は向上している。 湖西中学校での体験入学も復活し、中学生・6年生児童にとって有意義な機会が持てた。「有意義に感じ、積極的に取り組んでいる」(教)100%と意識は向上した。それぞれの部会の取組には課題があり、各校園とともに改善点を検討すべき。 「情報発信に努めている」(教)93%。「学校の様子を知らぬ」に役立っている」(保)93%。感染症対策の軽減により、保護者・地域住民の来校に人数制限等もなくなってきた。スクリーンを導入できた。	A A A A	希望の会のおかげで充実した活動ができる。みどプロは見直し・改善を視野に入れて実施していく。南小となのはな園の県指定事業発表にも参加する。 高学年が下学年に動きかけて活躍することで、あがれの存在になる場を設定する。キャリアパスポートは定期的に振り返り、有効活用していく。 負担にならないようにこれまで長年積み上げてきたことを各校園で実践していく。それぞれの部会での活動を校内で確実に伝え共有していく。 今年度導入した「スクリーン」を最大限に活用し、登録者を増やし、さまざまな情報を有効に発信できるようにする。	みどプロは、児童が大人と話し合うことで力がつき、自主・自立につながった。活動が夏休みと重なるので時期の調整が必要である。職員や学運協や希望の会の理解が深まっている。学運協に職員が交代しながら多く参加され、意見交流ができてよかった。地域の協力体制に尽力されている。スクリーンの導入がよかった。

学校 関係 者 評価	総 評	評定	学校関係者評価を踏まえた改善点
	全校的に落ち着いた雰囲気があり、時間の規律がとれている。人権の花運動や人権集会をはじめ、人権に配慮した取組を行っている。田んぼ、スキー、縄跳びなど北小らしさを継続してくれている。みどプロは、児童が主体的に取り組む姿が見られ、次年度も継続してほしい取組であるが、実施時期や期間についての検討が必要である。地域の方と学校の連携を引き続きお願いしたい。学運協委員が学習参観できる機会を増やしてほしい。個々の児童により到達にばらつきがある。また、個別対応は大切であるが、集団としての最低限のルールを守らせるようにしなければならない。集団に入りきれない児童がいることや、言葉遣い、あいさつなども課題である。北小の子どもたちにとん力をつけるか、どう伸ばすか、伝統として何を残すかを考えてほしい。地域はその考えを支持し、協力したい。	B	北小の伝統という評価を受けているものは継続していくが、ただそのまま継続するのではなく、その何がよいのかを考えながら、改善を図っていく。夏休みに活動が続く「みどプロ」は実施時期や期間を見直す。落ち着いた雰囲気や規律ある学校生活を作るために「学習のきまり」を全学級に掲示するなど、共通実践の意識を今年度よりもしっかりもち、全校的に統一して取り組んでいく。 引き続き学運協委員、希望の会をはじめ、地域の方々の声を聞きながら、学校の教育活動への理解と協力をお願いしていく。学運協委員には保護者の学習参観等にも案内を出し、参観していただく機会を増やす。 情報発信のためにスクリーンをさらに活用していく。

4段階評定(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

(様式Ⅰ)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ中学校

学校 教育 目標	品位・気魄・和合 ～思いやりの心や粘り強さを大切に し、自ら考え、判断し、行動する生徒の 育成～	昨 年 度 の 評 価 概 要	・授業がわかる94%(生) ・考えを表現する授業90%(生) ・道徳授業の充実95%(生) ・よく関わってくれる先生97%(生) ・委員会や班活動での協力(生)97% ○学力向上への取組・・・言語活動の充実と補充学習の徹底 ○いじめ点検・・・生徒・保護者月1回を実施：いじめをされたことはない 95%(生) 学校関係者評価より ・学業だけでなく、さまざまな取組に主体的に参加し、生徒が意欲的に生き生きとしている様子も見られた。今後も学校と地域が連携し、生徒を支え育むためのよい学び場を模索していけたらよいと思う。 ・新しい試みを考えだし地域連携や園小中の連携は一層進んだと感じる。子どもたちの成長を願い、先生方が一丸となって取り組んで、地域住民として非常にありがたい。ただ、簡略化や精選を図り、生徒と接する時間を作るのが大切ではないかと考える。	中 期 的 目 標	○意欲的に学びに向かう態度の育成 ○他を大切に作る態度の育成 ○自己有用感を高める指導の推進 ○理想の大人として研鑽を積む教職員 ○全教職員で全生徒を育てる組織の充実
----------------	--	--------------------------------------	---	-----------------------	--

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・主体的な学びの確立 ・基礎基本の徹底 ・学び合う学習の充実 ・言語活動の充実 ・ICT機器を活用した授業実践	生徒85%以上が「授業がよくわかる」と回答 補充学習の実施 生徒85%以上が「やる気をもって授業に取り組んだ」と回答 生徒85%以上が「自分の考えを伝えたり書いたりした」と回答 生徒85%以上が「タブレット端末や資料を使ってする授業は楽しい」と回答	「授業での学習内容はよくわかった」と91.0%、「授業が分かりやすい」と97.0%、「授業中、先生の話を聞いている」と95.5%の生徒が回答している。定期テスト前と受験対策の補充学習を実施した。 「やる気をもって授業の課題に取り組んでいる」と78.0%、「家庭学習目標時間(1年70分、2年80分、3年90分)に達成している」と30.0%、「家庭では毎日60分以上学習している」と50.0%の生徒が回答している。 「授業中、ほかの人の意見を聞いたり自分の意見を発表したりしている」と91.0%「縦割り活動や学校行事で自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表したり書いたりすることができた」と88.0%の生徒が回答している。 「タブレット端末や資料を使ってする授業は楽しい」と、94.0%の生徒が回答している。	A	分ける授業、テスト前補充学習、振り返り学習の充実を継続し、聞くことができる生徒集団を育成する。 学習する意義を考える場を設定する。興味・関心を高める授業改善を展開していく。また家庭での学習課題を工夫する。 今後も、タブレット端末や資料を活用して、考えを発信したり聞いたりする場を設定する。	・教師が指導力点に沿ってよく取り組んでいて、また、授業や集会等でタブレット端末を効果的に活用している。引き続き、興味関心を高めることや学び合う場、振り返り学習で学習の定着を図る場面を工夫する。また、「やる気」と「授業がよくわかる」には深い関わりがあり、質問したり発言したり授業に取り組んでいれば、家庭学習の定着や目標設定について一考の余地がある。できない検証や家庭との連携等も考慮してもよい。
○豊かな心づくり ・道徳教育の充実 ・全校縦割り活動の充実 ・生徒会主体の学校行事の活性化 ・生徒指導・教育相談の充実	生徒80%以上が「道徳はためになる」と回答 生徒85%以上が「委員会や班活動に積極的に取り組めた」と回答 生徒90%以上が「先生はよく関わってくれる」と回答 「いじめ点検」を月1回実施	「道徳の勉強はためになる」と、95.5%の生徒が回答している。 「委員会や班の活動に頑張って取り組めた」と、94.0%の生徒が回答している。 「縦割り活動等の交流活動は協力してできた」と、96.0%の生徒が回答している。 「先生はよく関わってくれる」と、97.0%の生徒が回答している。また、「教職員は質問や相談したときに適切に対応している」と、99.5%の保護者が回答している。 「いじめ点検(生活の振り返り)」を1回実施。いじめ認知件数42件(2月末まで、今年度のみ36件)「いじめ嫌なことをされたり言われたことがある」に「当てはまらない」と75.0%、「あまり当てはまらない」と19.0%の生徒が回答している。	A	自分事として捉える道徳の授業を展開し、生き方考える学習へとつなげていく。 引き続き、生徒の自治能力や思いやりの心を育み、よりよい集団づくりに尽力していく。 教育相談についての研修の場を設け、教職員の生徒をみる視点をさらに高めていく。 民主的な集団づくりと教育相談機能をいかした生徒指導力の向上に注力していく。	・心の成長の場としての道徳教育で自分の思いを出し合っている。委員会、班活動が充実し、園小中・縦割り・地域との交流も取り組み、落ち着いた学校行事ができていく。教師の関わりへの評価が高く、今後も信頼できる身近な存在であってほしい。評価について、自己有用感、自尊感情などを育む指標を入れたりいじめ事案の軽重を分けたりすることも検討してほしい。
○健康な心身の育成 ・健康な生活リズムの確立 ・自己管理の定着 ・挨拶運動の充実 ・健康に関する授業の充実	生徒90%以上が「学校に来るのが楽しい」と回答 生徒85%以上が「時間に余裕をもって登校できた」と回答 生徒90%以上が「近所の人に挨拶ができる」と回答 生徒85%以上が「外部指導者からの健康に関する授業は参考になった」と回答	「学校へ行くのが楽しい」と、7月は80.0%、12月は92.0%の生徒が回答している。 「登下校の時刻やベル着など時間を守っている」と、93.5%の生徒が回答している。 「近所の人に会ったときは、挨拶をしている」と、95.5%の生徒が回答している。 「外部の講師の方を招いた学習は参考になった」【交通安全教室、AED研修、がん教育、性教育、郷土料理、スポーツトレーニング講座】と94.0%の生徒が回答している。	B	魅力的な授業や学校行事、生徒会活動、学年活動で工夫するとともに、教育相談の充実を図る。 引き続き、生徒自身で時間をコントロールできるように、生徒会や学年会を活用していく。 引き続き、教師自らが挨拶することと、生徒会を活用した朝の挨拶運動を展開していく。 学校教育に理解のある外部講師を今後も招聘し、実生活に役立つ授業を設定していく。	・学校に行く楽しさを多くの子が感じていたり挨拶がしつかりできていたりするの素晴らしい。いろんな外部講師を招いて関心を深めている取組がよかった。 ・欠席が続く生徒とその保護者への個別対応と教師のサポート体制をお願いしたい。 ・就寝時間や体力づくりの指標を入れてはどうだろうと思う。また、就寝時間とスクリーンタイムが家庭学習時間にも影響しているかもしれない。
○園小中・保護者・地域とともにある学校の創造 ・地域貢献活動の充実 ・二者・三者懇談会の充実 ・学校運営協議会の充実 ・園小中の交流活動の充実	生徒85%以上が「地域や園小中の交流活動で協力できた」と回答 年間2回の保護者懇談会や保護者・生徒アンケートの実施と学校評価結果の公表 学校運営協議会を通しての地域学校協働活動の実施 園小中のこども交流年3回以上 合同研究会・研修会の実施	「交流活動は協力できた」「そこで『ありがとう』と伝える場面があった」と96.0%の生徒が回答している。地域貢献活動(1年：藤美祭祭り・上岡田/バブリカ収穫祭 2年：海岸清掃(雨天中止) 3年：星湖ウォーキング)、マキノ祭の実施 4月希望制二者懇談会、7月二者懇談会、12月三者懇談会、3年11月希望制個別懇談会、3年親子進路説明会(6月、10月)の実施を含む、毎月1回保護者が学校に来る機会の設定。年間2回の学校総取り振り返りアンケート結果公表。 学校運営協議会を5回開催。第3回目には保護者、生徒、教職員も参加し、意見交流ができた。学校地域連携カリキュラムについて共有した。 マキノ祭、小学生陸上・マラソン大会の支援、小学校低学年への読み聞かせボランティア、小6体験入部、児童生徒代表によるオンライン交流会、保育実習で園・小・中の交流、園小・中学校国語教育研究発表大会の実施	A	園・小・中での交流活動を今後も推進するとともに地域に愛着を育むための教育活動を工夫していく。 気軽に足を運ぶことができる学校開放日や個別懇談会を設定する。また保護者・生徒アンケートの意見を参考にして学校運営をしていく。 ふるさとに愛着を育む子を育成するために、保護者や地域の方の協力を得るとともに、地域へ貢献する活動を工夫する。 育てたい力を園・小・中・中で共通理解し、その力をつけるために各校園で教育活動を工夫し実践していく。	・園小中や地域との連携が充実され、互いに成長していく姿がみられ、よい学びとなっている。小学校統合後の連携の取組や生徒会と地域が連携する仕組みを検討できればよい。また、弘大学運協の取組では大人と子どもが意見交流する場があり有意義であった。今後、地域ボランティア活動の事前学習を取り入れると一層理解が深まると考える。また、「地域連携」を中期目標および評価指標に追加してもらいたい。

学校 関係 者 評 価	総 評 ・授業参観や全校集会等において、グループ学習を効果的に取り入れたり前向きに話し合い主体的に発表したりしている。また、「授業がよく分かる」「自分の意見を発表している」と約9割の生徒が回答している。このことから日頃の教師の熱心さと温かな姿勢、そして生徒の努力が伺える。縦割り活動、園小中との交流活動は主体性やリーダーとしての役割意識につながり今後も大切にしていきたい。また、生徒・保護者・教職員の距離が近く、学校教育がよいものになったと思う。家庭学習の取組については、生徒自身が目標をもち将来像を具現化できる取組や興味関心を高め、学びたくなる授業や保護者との連携を工夫するとよい。 ・少子高齢化が進み、生徒数も減少する。今後、その対応の仕方や部活動のあり方の道筋が見えることや地域の魅力や現状と課題を考え、周囲と関わりを深める取組を工夫し、生まれ育ったマキノを引っ張っていく子らの成長を願っている。 ・「いじめ点検」については、「先生はよく関わってくれる」だけの指標ではやや弱いように思うが、細心の目配りにより、早期発見・認知をして対応している。今後も発見・認知後の対応について検証したり、生徒に目を配ったりしていただきたい。	評 定	学校関係者評価を踏まえての改善点 ・「生徒が主体となる授業づくり、集団づくり」を柱として教育活動を工夫していく。特に学力向上においては、生徒の意欲を喚起し、考えたことを交流する授業とともに書く活動と振り返り活動を充実させる。家庭学習においては、生徒への意識改革を図るとともに、日々の授業改善に努め保護者とも連携して進めていく。集団づくりにおいては、班活動、生徒会活動、縦割り活動、園小中の交流活動に重点を置き、共感的支持的な人間関係の向上に努め、思いやりのある生徒を育てていく。 ・減少する生徒数に応じた教育活動を工夫するとともに、ふるさとに愛着をもつ生徒を育てるための学習を進めていく。また、将来のことについて考えるキャリア教育を充実させていく。 ・「いじめ防止」について、常に目を配るとともに、生徒集団の向上を図るとともに教育相談の機能をいかしていく。また、引き続き生徒・保護者アンケートを活用し、早期発見と改善に努めていく。
-------------------------	---	--------	---

4段階評定（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

(様式1)

令和6年度 学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津中学校

学校教育目標	豊かな心（新しい発想をもつ）	昨年度の 評価概要	○学力の向上…B ・授業を楽しみにしている。(生徒73%) ・生徒が授業や学習をわかる、できる、楽しめるような工夫をした。(教職員94%) ○豊かな心づくり…B ・自分に自信のもてるよいところがある。(生徒69%) ・生徒の個性を認め、よさを伝えることができた。(教職員94%) ○健康な心身の育成…A ・困ったときは、先生に相談できそうな環境である。(生徒82%) ・子どもに対して学校からの日常生活の支援が丁寧になされている。(保護者81%) ○地域連携…B ・PTA活動は保護者によく内容が伝わり充実している(保護者64%) ・学校と家庭が連携をとり、子どもの教育を進めている。(保護者66%)	中期的 目標	○意欲をもって自ら学ぶ姿勢を育成する ○豊かな心を育む体験活動を実施する ○学友会活動を充実させ、自治的・自律的な集団を育成する ○正しい判断ができる生徒、規範意識が高い生徒を育成する ○保護者や地域に信頼され開かれた学校づくりを進める ○教師の授業力を向上させる ○生徒に寄り添い率先垂進する教師集団づくり
	自律（自ら考え判断し行動する）				
	尊重（相手意識をもつ）				
	【校訓】 真理の探究・正義の実践・平和の愛好				

評価項目(指導力点)	指標・到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
学力向上・学習指導	①「楽しい、わかる、自信がもてる」授業が行われている。	生徒アンケートで「授業を楽しみにしている」と答えた生徒→64% 保護者評価で「子どもは、授業での学習を楽しみにしている様子がある」と答えた保護者→61% 教職員評価で「生徒が授業や学習をわかる、できる、楽しめるような工夫をした」という教職員→94%	B	昨年度よりも授業を楽しみにしている生徒が少なくなっている。教職員は工夫をしているが、「わかる、できる」楽しさを体感させる必要がある。	・授業を参観した際に、子どもたちはタブレットを使用しながら楽しそうに活動をしている。どのクラスも雰囲気がよく、先生と子どもたちが一緒に考えたり、やり取りをしたり、一生懸命に頑張っている様子が見られた。今後も引き続きお願いしたい。
	②学習面において子どもが自ら進んで取り組んでいる。	生徒アンケートで「わかる、できるようにするために自分から学ぼうとしている」と答えた生徒→85% 保護者評価で「子どもは自分から進んで学習に取り組む様子がある」と答えた保護者→66% 教職員評価で「学習支援の充実に意欲的であった」と答えた教職員→94%	A	グループでの活動やタブレットを利用しながら意欲的に取り組む生徒が増えている。今後も統一した取組で学力向上につなげてい。	
	③生徒は学習内容を理解できるように頑張っている。	生徒アンケートで「学習内容を理解できている」と答えた生徒→86% 保護者評価で「子どもは、学習内容を理解している様子がある」と答えた保護者→70% 教職員評価で「アイデアの共有など、効果的なICTの活用を効果、実践した」と答えた教職員→88%	B	授業を楽しみにはしていないが理解できていると感じている生徒が多い。生徒の努力を認めながら、得た知識理解を実用・運用できるように学習活動を取り入れた。	・先生たちの配慮や工夫が見られた。先生と子どもたちの関係がうまくつながっていると感じられた。今後も学習意欲が高まる授業や支援をお願いしたい。
	④安心して学習に取り組めている。	生徒アンケートで「仲間とともに考えたり、学び合ったりするなど、安心して学習することができる」と答えた生徒→86% 教職員評価で「安心して生活できる学級づくり、授業づくりに取り組んだ」と答えた教職員→94%	A	どの教科においても題での学び合い活動を行っているため、安心して自分の意見や友人の意見を伝え合うことができる。今後も続けていきたい。	
豊かな心づくり	⑤道徳の授業の充実を図る。	生徒アンケートで「道徳の授業では自分のことや生き方について考えた」と答えた生徒→90% 教職員評価で「道徳の授業を重視し、他の教員と相談しながら、活動の充実努力した」と答えた教職員→82%	A	工夫した道徳の授業を行っている。タブレットを用いて、自分の意見や友人の意見がすぐに提示されるため、多様な考えを共有することができる。毎時間、自分はどうだろうかと振り返ることができている。改善を加えながら継続させてい。	・あいさつについては、地域や校舎内でも中学生はしっかりとできている。地域からも中学生があいさつをしてくれると元気になるという声も聞いている。
	⑥相手意識をもって行動する力をつける。	生徒アンケートで「相手の気持ちになって、話したり行動したりできた」と答えた生徒→91% 教職員評価で「相手の気持ちになって行動する大切さを伝え、促すことができた」と答えた教職員→94%	A	学校教育目標の「尊重→相手意識をもつ」を最も重点的に全ての教育活動に取り入れてきた。生徒にも浸透している。今後も強調して意識を強く持たせていきたい。	・多くの生徒が楽しんでいる行事は今後も工夫しながら続けてほしい。行事の補助はもろろ面接指導や設備の修繕など、できる範囲で今津中サポーター会も支援していきたい。
	⑦学友会活動を活性化させる。	生徒アンケートで「学校行事では、周りの人のことを考え、行事の成功のために行動できた」と答えた生徒→94% 保護者評価で「学校行事では、子どもが成長している様子が感じられた」と答えた保護者→95% 教職員評価で「学校行事では、学級や学年、学校の集団力を高めるよう、工夫や支援ができた」と答えた教職員→88%	A	行事に取り組む姿勢は素晴らしい。楽しんでいる生徒が多い。生徒の主体性や達成感を育めるような行事をさらに工夫していきたい。	
	⑧挨拶がしっかりとできている。	生徒アンケートで「挨拶をしっかりと行っている」と答えた生徒→94% 保護者評価で「子どもは、挨拶をしっかりと行っている様子がある」と答えた保護者→77% 教職員評価で「生徒たちが挨拶をしっかりと伝えるよう、率先して挨拶をした」と答えた教職員→94%	B	学校全体に気持ちのよい挨拶を交わす雰囲気を感じられる。地域からもお褒めの言葉をいただいている。	・「相手の気持ちになって、話したり行動したりできた」というアンケート項目で91%が肯定的な評価であったことは注目したい。学校教育目標を全教職員と全校生徒が意識した結果である。実践につながるよう支援を継続してほしい。
健康な心身の育成	⑩生徒が学校が楽しいという環境をつくる。	生徒アンケートで「学校は楽しい」と答えた生徒→89% 保護者評価で「子どもは家で学校が楽しんでいる様子がある」と答えた保護者→82% 教職員評価で「生徒が安心して学校生活を送れるよう、生徒どうしをつなげる工夫をした」と答えた教職員→94%	A	学校が楽しいと答える生徒が昨年より増加している。日頃から、信頼共有と他者の生徒の気持ちに寄り添った対応を行っている結果だと感じる。	・昨年以上に多くの生徒が学校行事を楽しんでいる様子うかがえる。なかには、友人関係等が悩ましくないと感じている子もいると思われるが、先生方が個々に丁寧な対応をしてくださっている様子うかがえる。
	⑪生徒が清掃活動をしっかりできるようにする。	生徒アンケートで「清掃活動を頑張っている」と答えた生徒→92% 教職員評価で「生徒が清掃活動を頑張るよう役割分担や明確な指示、主体性をもたせる工夫をした」と答えた教職員→88%	A	美化委員会を中心に放課での呼びかけなどを行っている。熱心に清掃に取り組む姿が見られる。生徒の奉仕の精神や感謝の気持ち等を育む価値のある活動の一つとして大切にしていきたい。	・学校での様子が保護者になかなか伝わりにくい現状があるのでないか。家庭のなかで、子と親の対話がありまできいていないと感じることがある。子どもは親には学校のことや自分の様子を話さない場合もあり、親は子どもが何をかめないこともあるだろう。改善策を考えた。
	⑫学校・学年行事を楽しむ生徒を90%以上にする。	生徒アンケートで「学校行事や部活動などに進んで参加し、楽しめている」と答えた生徒→91% 保護者評価で「子どもは学校行事や部活動などに進んで参加し、楽しんでいる様子がある」と答えた保護者→88% 教職員評価で「生徒は学校行事や部活動などに進んで参加するよう、声かけや支援を行った」と答えた教職員→88%	A	工夫した楽しい学校行事を行っていることもあり、生徒はいきいきと活動に取り組んでいた。部活動の取り組み時間は減少したが効果的に実施している。	
	⑬困ったときに先生に相談できそうな環境である。	生徒アンケートで「困ったときは、先生に相談できそうな環境である」と答えた生徒→84% 保護者評価で「子どもに対して、学校からの日常生活の支援が丁寧になされている」と答えた保護者→77% 教職員評価で「生徒の様子の変化がいかを注視し、支援の声かけを行った」と答えた教職員→100%	B	常に生徒の近くで教職員がいるようにしているため、相談できる雰囲気がつくれている。今後も生徒に寄り添った教育支援を行いたい。	
地域連携 教職員の資質向上	⑭PTA活動や地域の団体との連携を図り、活動を充実させる。	保護者評価で「PTA活動は、保護者によく内容が伝わり充実している」と答えた保護者→66% 教職員評価で「地域の生徒の育成を目指して、サポーター会や地域の団体と連携するように努めた」と答えた教職員→71%	B	PTA活動については見直しを行い、来年度も活動は縮小するが継続して実施していく。来年度はアンケート項目を変更していく。	・本校のPTA活動は継続していくことになった。活動内容は縮小していくことになるが、子どものためになる活動を行っているほしい。
	⑮地域とともにある学校づくりを進める。	保護者評価で「学校と家庭が連携をとり、子どもの教育を進めている」と答えた保護者→61% 教職員評価で「自校と地域が連携だけでなく、地域の大人が子どもの支援に関わろうとする体制であった」と答えた教職員→94%	A	学校地域連携カリキュラムなど、地域と学校がかかわりをもつなかで教育活動を行う事ができている。個々の保護者と連携ができていない。	・学校と地域が協働して様々な活動を行っているが、保護者にそのことが伝わっていない。もっと保護者も巻き込んだ活動を行うことも必要かもしれない。
	⑯HPや通信等を通して学校の様子や取組を発信する。	保護者評価で「学校や学級からの通信や案内は、適切に配布されている」と答えた保護者→92% 学校だより(今中スクラム)は区を通して全戸配付している。	A	引き続き、HP・通信等での学校の様子を積極発信していく。HPの情報発信は配慮しながら継続させていきたい。	
	⑰校内研究・OJTの推進、研修の充実を図る。	教職員評価で「口頭から職員どうしで連絡や相談を行い、校内OJTを推進した」と答えた教職員→94% 教職員評価で「学校の課題の解決に向けた研修や資質の向上のための校内研修は充実していた」と答えた教職員→88%	A	若手教員が多いため、経験豊富な教員と互いに授業を参観するなどOJTを通して研修を充実させたい。わかる授業のあり方の研修を充実させたい。	・OJTなどを通して研修ができていると思われる。今後も校内での研修を通して人材育成に努力を続けてほしい。

	総 評	評 定	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校関係者評価	○生徒の様子から ・生徒たちは数年前と比べるとかなり落ち着いた様子で、仲間と協力しながら学校生活を送ることができている。学校行事や授業などを参観しても、生徒も先生方も共に一緒に楽しく取り組んでいると感じた。また、「トークワークダンス」や「面接指導」からも、3年生になるとそれぞれしっかりとした考えをもち、自分の気持ちを表現できていたことに感心する。 ○学力向上について ・授業中は楽しそうに取り組んでいるように感じる。理解できるように努力している様子も見られた。生徒と先生方のコミュニケーションはしっかりとできていると感じる。学力向上に向けては、自信をもたせ家庭学習の充実するように指導を継続させてほしい。引き続き、子どもたちが「わかった、できた」と感じる授業や体験を学校にも期待したい。 ○家庭や地域において ・学校地域連携カリキュラムでの「びわ湖岸のハマヒルガオ保全活動、外來種駆除」は地域住民自治協議会との協働で実施することができた。中学生の動きもよかった。また、今年度も3年生と地域住民との「大人としゃべり場～トークワークダンス～」も実施することができた。地域と学校とのつながりが深まった。その関わりの様子をもっと保護者や地域住民に広めていくことが必要である。	A	◎学校・学年行事の充実と学友会活動の推進 ・今年度も学校行事や学年行事を通して、生徒が楽しく活動し目的を達成する様子うかがえた。行事の内容やあり方を再検討し、最も適した状況で学校行事や学年行事を充実させ、あたりまえにとらわれず新しい行事の在り方を考え実行していきたい。また自治活動である生徒会活動の推進も図りたい。 ○学力向上に向けて ・生徒の学力の向上、学習に対する関心意欲を高めることは喫緊の課題である。楽しい授業、わかる喜びを感じ取る授業を展開できるように努力しているが、学力向上に結びつかない。今後も生徒に寄り添いながら自己肯定感をもたせ、生徒自らが主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせたい。 ○「地域とともにある学校」の推進に向けて ・PTAや今津中サポーター会、今津住民自治協議会等との連携をさらに強め、その様子をすべて保護者の方々に周知していただけるよう努力したい。 ・生徒が地域で活動できる、地域で生きている場を見つ、地域の活性化に努めていきたい。そのため、「大人としゃべり場～トークワークダンス～」を継続して実施したい。 ・地域学校協働活動において、熟識をしながら教育カリキュラムの編成に行いたい。来年度も「びわ湖岸での活動」を継続したい。

4段階評価(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

(様式1)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木中学校

学校 教育 目 標 朽の木とともに 大地に根を張り 幹を太らせ たくましく伸びる ○朽木の自然と地域の人々とともに、ふる里を愛し、ふる里を語る ○豊かな知識や技能、自分を支える体力、粘り強い精神力や豊かな人間性を高める ○夢や目標を持ち、自分で考え自分で判断し、たくましく未来を切り拓く	昨 年 度 の 評 価 概 要 ○授業改善について、生徒がさらに意欲的・主体的な学びになるよう取り組んでほしい。個々への手立てにも期待したい。 ○学校以外の居場所が必要な生徒がいることは当たり前なので、そこを考えていきたい。不登校生徒への絶え間ない支援をお願いしたい。 ○保幼小中での研修は、12年間通した発達が見通せるのでとてもよい。 ○地域での取組に積極的に参加する生徒たちに頼もしさを感じた。今後も活躍を期待する。	中 期 的 目 標 □『読み解く力』の視点を踏まえた授業づくり □目的意識と主体性を発揮できる場面の設定 □保幼小中一貫教育の発展 □朽木を愛する心を育む体験活動の推進 □キャリア教育の充実 □学校運営協議会、地域学校協働本部を核とした「地域とともにある学校」の推進
--	---	--

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定	改善方策	学校関係者評価
知「学習指導」 ◎「読み解く力」を核に、生徒が意欲的、主体的に取組む授業の創造 ◎ICTの有効活用 ◎保幼小中一貫教育を通した系統性のある学習指導 ◎家庭学習の習慣化	○「授業がわかりやすい」と答える生徒が90%以上	「授業で学習している内容は理解できている。」と答えた生徒は100%であったが、保護者は74%であった。	B	学習意欲を高めるための課題提示や学習方法を工夫していく。 校内研究の充実を図り、朽木中独自の学習スタイルの確立を目指す。 ICTの有効的な活用方法について研修を重ね、さらに積極的に活用する。 課題の出し方や提出の仕方を工夫・改善していく。 保幼小中のつながりを大切に取組んでいく。	・授業の学習内容の理解度が、生徒と保護者とで違いがあることが不思議である。100%の生徒自身が理解しているのなら問題ないかなと思うが、本当にすべての教科において、100%理解しているのか。 ・生徒が少なくなる中、朽木中独自（独特）の学習形態が必要になる。 ・保幼小中合同授業研究会や合同授業の取組は、系統的な学習指導ができ、また15才の姿を保小からえがき、目指せることは大変重要で有意義だと思う。
	○全教科で『読み解く力』の視点を踏まえた授業改善90%以上	「読み解く力」の視点を踏まえた授業改善を行い、授業力の向上に努めた教職員は100%であった。	A		
	○ICT機器の有効的な活用80%以上	タブレット端末を有効なツールとして活用できたと答えた生徒は96%であった。	A		
	○宿題、自主学習、読書等の家庭学習が、1日60分以上の生徒が70%以上	家庭学習の評価については、生徒は61%であったが、保護者は58%であった。	C		
	○小中合同授業（Build Up Time）、保幼小中合同授業研究会の充実80%以上	保幼小中合同授業研究会や小中合同授業の取組は、充実したものになっていたと答えた教職員は100%であった。	A		
徳「道徳、生徒指導等」 ◎いじめを許さない生徒指導の推進 ◎生徒個人に寄り添った教育相談の充実 ◎豊かな人間性・社会性をはぐくむ体験活動の推進 ◎道徳の授業と評価の研修	○居心地のよい学校・学級づくり（学校・学級は安心して過ごせる）90%以上	「学校は安心して過ごすことができ、楽しい。」と答えた生徒は96%、保護者の評価も95%であった。	A	全職員で一人ひとりを大切に取組を継続していく。 取組を検証しながら継続し、より良い生徒理解に努めていく。 SC等と連携し、生徒の思いに寄り添う教育相談を継続していく。 生徒が目標を振り返る時間を確保し、達成感を味わえる工夫をしていく。 教材の選択や指導方法、評価の仕方など研修を重ねていく。	・先生方には朽木中生の特性などよく理解してくれていると思う。学校に足を運びにくい子も、先生が良い相談相手になっていれば嬉しい。 ・スマホによるいじめや誹謗中傷、偽情報や間バイトなど「加担しない」「騙されぬ」といった学びの充実を高める。 ・生徒は元気にのびのびと自由に学校生活を送っているように見える。学年関係なく仲もよい。「私の思い」発表を聞き、自分の弱いところもしっかり見つけて考えを述べていて素晴らしいと思った。
	○いじめ撲滅に向けた取組推進と、いじめ防止対策委員会の開催（毎日）	いじめの早期発見、早期対応のため毎日の情報交換、毎月の振り返りアンケートなどに取り組んでいる。	A		
	○SCと連携しながら、生徒の思いに寄り添った相談活動の充実90%以上	「生徒が相談しやすい雰囲気大切にしている。」教職員は100%、「先生は、悩みや相談事があるときは親身に対応してくれる。」と答えた生徒は100%であった。	A		
	○夢や目標の達成のために努力したり、新しいことに挑戦したと答える生徒が80%以上	今年度の指導力点の一つであり、生徒も少しずつ意識ができ、生徒の肯定的な評価は96%であった。	A		
	○「考え議論する道徳」への授業改善90%以上	教職員の授業改善への意識は100%と高く、生徒の肯定的な評価も96%であった。	A		
体「体育・保健・部活動」 ◎生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成 ◎体力の向上と健康の増進 ◎望ましい生活習慣の育成	○部活動の意欲的な取組90%以上	生徒の肯定的な評価は100%であった。個に応じた目標を設定するなど意欲を引き出す指導が今後も重要である。	A	個に応じた目標を設定するなど主体的に取り組む手立てを工夫していく。 保護者と連携し、規則正しい生活の重要性を様々な場面で発信していく。	・部活動の見直しに関して、生徒たちの声を聴いていただけたらと思う。 ・中学時代は、健康な体や心を作るためにも全員部活は大切なことだと思う。週1回くらい、個に応じた活動があってもよいと思う。
	○規則正しい生活習慣の定着80%以上	生徒の肯定的な評価は82%であったが、遅くまで起きている生徒は少なくない。保護者の肯定的な評価は89%であった。	B		
地域とともにある学校 「保幼小中一貫教育、地域連携」 ◎学びの連続性を重視した教育の推進 ◎学校と地域の協働による新しい文化の創造と発信	○滑らかな接続を目指す、保幼小中一貫教育による職員の連携、協力、協働80%以上	保幼小中中間での相互の授業参観や研究会を通して、連携が深められたと答えた教職員は100%であった。	A	今年度の取組を振り返り、より良い取組になるよう来年につなげていく。 学校・地域連携カリキュラムの検証と見直しを継続していく。 学校の様子や保護者や地域の方に伝える通信になるように工夫していく。	・「地域の中にある学校」「地域の一員としての学校」「地域の一員としての子ども」と思っている。 ・学校（教師）だけでできる活動も、地域と一緒にすることが可能な内容であれば、協働したい。
	○学校運営協議会、地域学校協働活動との協働による教育活動の充実	「地域の行事に積極的に参加している。」生徒は82%であったが、地域における活動を充実させることができた。	A		
	○「朽木中だより」「保健だより」「学級通信」等の発行により学校の様子がよく分かる90%以上	「学校だより」「保健だより」等を随時発行し、学校の様子を伝えてきた。保護者の肯定的な評価が100%であった。	A		
「主体性、自主・自律の精神の育成」 ◎主体的な活動による自主・自律の精神の育成 ◎自主的、創造的な活動と縦割り活動の活性化 ◎地域貢献活動の推進	○学級活動、生徒会活動（行事等）、体験活動における主体的、創造的な取組90%以上	「学校行事は楽しく充実したものになっている。」と答えた生徒は、1学期・2学期ともに100%であった。	A	個々の生徒の良さを認め、達成感を味わえるように支援をしていく。 3年生が1、2年生をリードし、意欲的に活動できるように支援していく。 地域との連携を大切に、より地域に貢献できる活動内容を検討していく。	・「トークフォークダンス」では、朽木中生の意外な面を見られた。まさに、自主・自律の精神が備わっている。 ・総合的な学習の時間の「太鼓」は、生徒の自主性をつける一つの柱だと思う。そのためには、もう少し時間が必要だと思う。
	○縦割り集団を生かした活動(委員会・清掃)への取組90%以上	「縦割り活動を生かした活動ができた。」と答えた教職員は100%、掃除に真剣に取り組んだ生徒は100%であった。	A		
	○地域貢献活動への積極的な参加	地域貢献活動（通学路の掃除、花壇の植え替え、独居老人宅訪問等）に全校生徒、環境委員会が取り組んだ。	A		

学校関係者評価	総	評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・小さな学校ならではの丁寧な対応、取組にいつも感謝している。これからも、生徒からの思いを引き出し、これができる、これできないと一緒に学校を作っていくほしい。 ・中学生あつての朽木の行事の成功ありというくらい、活躍してくれた。（中学生自身は、責任や達成感等どう感じているだろう。まだ受動的ではないだろうか。） ・地域貢献度が高く、地域の一人としての依存性と協調性が自己研鑽や充実につながっている。 ・多くの生徒が、地域の行事や子ども園の行事等にボランティアで参加し、その活動を通じて貴重な体験を積んでいけることはとても有意義なことだと思う。ボランティアに望む姿勢について、指導していけるとよい。		A	○主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指して、朽木中学校独自の学習スタイルの確立に向けた校内研究に取り組む。 ○ICTの有効活用や個に応じた指導について研修を重ねていく。 ○個々の生徒を大切に教育相談の充実を図るとともに、不登校生徒や別室登校生徒の対応は関係機関等と連携し、生徒の望ましい成長に繋がるものにしていく。 ○効果的な日課運営に努め、昼休みの活用・部活動・生徒会活動の充実を目指す。また、教職員の働き方改革を推進する。 ○総合的な学習の時間や特別活動を中心に、生徒の主体的な活動を推進し、自主・自立の精神の育成に努める。 ○学校・地域連携カリキュラムを検証し、学校運営協議会委員の方と熟議を重ね、地域との協働を進める。

4段階評定（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

(様式1)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立安曇川中学校

学校 教育 目標	『 確かな知性 かがやく良知 たくましい心身 』	←	昨 年 度 の 評 価 概 要	・中学校区の小中教員による連携教育への取組として、授業研究に取り組まれたことは評価できる。9年間を通して大切にすべき内容について、小中の教員間で共有しておくことは大切である。子どもたちの豊かな心の育成に、次年度の取組を期待したい。 ・1人1台端末を有効に活用して、教員が積極的な授業改善が図られていることは評価できる。しかし、1人ひとりの学力の定着・向上に結びついているか評価してほしい。また、使用状況から子どもたちの情報モラルの育成を図るとともに、今後の端末の効果的な活用を検討してほしい。 ・ここ数年変化が絶えない時期であったことから、子どもや家庭が振り回されることなく、意欲的に学習に取り組めるよう学校運営を進めてほしい。 ・さまざまな授業や取組などが地域とのつながりを大切にしながら取組が展開されている。校友会との連携に加えて、今後は、学校運営協議会委員と他の教職員との意見交換や情報共有、授業の配信等ができる機会が増えることが望ましい。以上のことから再評価とする。	→	中 期 的 目 標	地域に誇りと愛着をもち、 地域に役立ち、貢献できる生徒の育成
----------------	--------------------------------	---	--------------------------------------	--	---	-----------------------	---------------------------------------

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
小中一貫教育の推進 ・小中9年間を見据えた系統的かつ継続的な学習指導や生徒指導を行い、「自ら考え、判断し、行動する力」を育てる。	・小中をつなぐ児童生徒の交流活動に取り組みます。	町内3小学校の6年生の合同学習を実施し、当日は、6年生同士での交流体験、小・中学校教員による英語・技術・音楽科の授業体験、中学1年生との部活動体験を行った。	B	B	・小中学校の連携により、生徒の個性や特性による関わり の充実により、誰一人取り残されない学校運営ができる ように、保護者、地域住民の協力がより一層必要である。 ・小中一貫教育の目的やあり方を明確にし、長年の児童 の交流や教職員の研究会、授業改善などマンネリ化しない よう工夫をして計画すべきだ。 ・授業では聴く時、考える時、発言する時のメリハリを つける、基本的な生活からの積み上げを大事にして集団 生活をしっかりと身に付けさせたい。
	・学びの連続性を大切にし、小中教員による共同授業研究等の取組を推進します。	文科省「よりよい生き方を実践する力」を育む道徳教育の推進事業」推進校として、中学校区の小中教職員が5つの部会に分かれ、3回の研究授業を行い、小中一貫した共同授業研究の継続的な実践を図った。	A		
	・「我が校の学び方向上策」に基づき、学力向上を図ります。	ICT効果的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」のある授業づくり、「読み解く力」の向上を目指し、話し合いが進むような学習課題の工夫や学習規律の設定と指導に継続的に取り組んだ。	B		
確かな学力の定着 ・基礎・基本の定着と問題解決能力を育てる。 ・1人1台端末を活用し、「個別最適な学び」と「協働的・探究的な学び」を充実させる。	・1人1台端末を有効に活用し、話し合いや体験等を取り入れた授業を全教員が実践します。 (授業が分かる：生徒80%、保護者60%)	全教員が、各教科の授業において1人1台端末を有効に活用し、話し合い学習や意見交流の充実を図ることができた。1人1台端末の活用については、推進したが、生徒の学習活動への積極的な取組にやや課題がみられた。 (「授業が分かりやすい」と回答した割合：生徒は71.5→70.5%、保護者は57.2→62.3%)	C	B	・1人1台端末のより一層の効果的な活用方法を模索し、全校生徒に「情報リテラシーやモラル」についての指導を実施する。 ・小中学校での授業公開や研究授業の機会を通して、校種間で学び合える機会を数多く設定していくことが重要である。
	・校内研究を推進し、道徳科授業研究会や全教員の公開授業を実施します。	中学校区小中一貫教育研究「道徳教育」を校内研究として、定期的な授業公開や授業研究会を開催し、各部会等全教員が参観して研究協議を行うことができた。また、各研究会には大学教授等にご参加いただき、授業改善に向けた指導助言をいただくことができた。	A		
豊かな心の育成 ・豊かな情操や規範意識、社会性、人を思いやる心を育成する。 ・すべての子どもの多様性が認められる豊かな人権意識を培う。	・道徳教育を推進し、対話的な学びを通して、自他を認め合う心情を養います。	「思いを伝え合い、考えを深める道徳科」の授業づくりに向け、授業展開や考えを深めることができる発問の工夫など教員の指導力向上に取り組んだ。	A	B	・学年に応じた体験活動を通じて豊かな心の育成ができてい る。 ・地域に根ざした教育の素晴らしさは、地元の協力が不可欠で、 もって子どもの学びの場を知らせていくべき。 ・全教育活動を通して、人間性をみがいてほしい。生徒は柔軟性 がある時期なので、長所を伸ばす努力や足りない部分を補填する気 持ちは持たせてほしい。 ・思春期の生徒への指導、保護者の協力は難しいことが、教職 員は自信を持って取り組んでほしい。 ・藤原先生の教えを唱和するなど考えと行動がにつながる取組も良 いことだ。 ・校友会との意見交換の場でも出された課題(授業中の態度、先生 に対する態度など)に対しての改善をつなげてほしい。 ・ふるさとを離れて高島を見てその良さを思い、機会があれば戻 り住み働いてくれる子どもを期待したい。
	・体験活動を通して、豊かな心を育みます。 1年:地域探訪 2年:キャリア学習 3年:体験的進路学習	3学年とともに年度当初計画していた体験活動を実施し、地域の中で仲間とともにこの時期にしか体験できない貴重な経験を積むことができた。	A		
	・生徒会活動や学級活動を柱にして支え合い高め合える集団づくりを推進します。 (学校は楽しい：生徒90% 保護者80%)	生徒会担当教員が中心となり、伝統ある校友会活動のさらなる発展を目指す校友会役員をサポートし、全教員で校友会活動の活性化に向けた全体的な取組の充実を図った。(「学校は楽しい」と回答した割合：生徒88.2→92.4%、保護者83.2→85.5%)	B		
	・人権意識を高め、思いやりのある良好な人間関係を育みます。(いじめを許さない：生徒90%) (学級はまとまりがある：生徒80%)	いじめの早期発見・早期対応のため、定期的に生徒や保護者を対象とした「いじめに関するアンケート調査」を実施し、課題解決に向けた迅速かつ適切な対応に努めた。校友会活動「安曇川中学校いじめ撲滅運動(AIB)」を行い、生徒自らによるいじめ防止の意識の醸成を図った。(学級はまとまりがある：67.5→71.5%)	C		
健やかな体の育成 ・体力向上と健康の保持増進の基礎となる運動習慣等を育成する。	・保健指導、性教育、がん教育など、健康の保持増進に特化した授業を行います。	医師や助産師、歯科衛生士、体験者の方々を講師に招き、健康の保持増進に特化した授業を行い、心身の健康教育の推進を図った。	B	B	・根性、忍耐は現代でも大切な感覚だと思う。授業、部活動、民 間の団体でしっかりと附えられる体力を養ってほしい。 ・保健では、踏み込んだ内容を取り入れリアリティーのある授業 を求める。 ・生徒の体力が有り余っているので、昼休みなどでも楽しめる活 動をしていく。
	・部活動の活性および効率化に努め、体力の向上を図ります。	部活動の指導体制の強化を図り、市内拠点校部活動(軟式野球・ソフトテニス男子)の設置ならびに部活動指導員を配置し、広く活動の充実 に努めた。各種大会やコンクール等において活躍がみられた。	A		
地域とともに歩む学校づくり ・地域・家庭・学校がつながり積極的 に連携・協働する体制づくりを推進する。	・学校運営協議会の活性化と地域学校協働活動の充実を図ります。	学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進に向けて、学校運営協議会において熟議を重ね、地域の各種団体との情報共有を行い、つながりが深まった。	A	B	・形式的なものでなく、教員と委員とが橋を突き合わせて意見交 換できる場とし、生徒の現状について腹藏なく話し合いたい。 ・親子参観日など保護者の職場との連携や、子どもと保護者の関係、 子どもの変化や表情を見られる機会を作るとよい。 ・地域の活動との距離が近くなるともっと良くなるのではない か。
	・保護者の理解や協力を得るため、授業や行事への参加、相談等家庭との連携を図ります。	学校・学年だより、クラスインギンによる情報発信、体育祭や文化祭等の行事や授業公開を行い、保護者に生徒の学びの理解・協力を図った。	B		

学校関係者評価	総 評	評 定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・小中一貫教育では、道徳教育の研究での成果と課題を踏まえ、今後の小中一貫教育の目的や目指す生徒像を全教職員で共有し、児童生徒の健全な成長を図れるような指導実践を進めていく。 ・一人ひとりの学習保障を推進するために、「学びの場」である学校で落ち着いた集団生活を送れるようにすることが必要である。工夫された意図的な授業や多様な活動を取り入れ、生徒の実態に応じた指導を教職員は自信を持って取り組む必要がある。 ・タブレット端末の活用は推進は図れたが、生徒の使用実態に課題が見られることから、使用の仕方や情報リテラシー、モラルの指導を改善する必要がある。 ・多くの地域の方が子どもたちを日々見守ってくださり、褒めたり注意ができたりしてつながりができた。以上のことから、総合的にB評価とする。	B	・中学校区小中一貫教育では、道徳科授業研究の成果と生徒の実態を踏まえて、さらに、小中学校9年間の学びの実態、各発達段階での指導の状況や課題を小中学校全教職員が把握するために、各校での教職員の授業参観や児童生徒の交流活動を進め、安曇川中学校区の15歳のめざす子どもの姿を共有し、一層研究を図る。また、教職員の指導力・組織力向上のための研修の時間を確保する。 ・一人ひとりの学びを進められるよう、学ぶ意欲を向上し、より良い集団の育成に取り組んでいく。授業だけでなく、すべての教育活動を通して仲間づくりやより良い関係性の構築ができるよう、規範意識の向上や他者を思い、考えたり、想像したりする心の醸成に取り組む。 ・命や人権にかかわる安全教育（交通安全、性教育、ネットSNS、言葉遣い等の生き方等）を推進する。 ・引き続き、学校地域連携カリキュラムに基づき、地域の方や保護者とともに活動する機会を増やし、校友会等の生徒の主体的な活動の場、総合学習での地域での体験活動等を行う。各学年の総合的な学習を中心として、生徒が故郷への貢献や自分の生き方について、主体的に考え行動できるような学習活動を工夫して実践したい。

4段階評価(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

(様式1)

令和6年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立高島中学校

学校 教育 目標	—主体性の育成— 確かな学力と豊かな心を身につけ たくましく未来を拓く子どもの育成	昨年度 の 評価 概要 ○学力(A)…学校生活の充実(A) 家庭学習(B) ○豊かな心(A)…あいさつ(A) 教員の熱意(A) ○健やかな身体(A)…行事・部活動(A) 学校生活の充実(A) ○地域とともにある学校(A)…情報の公開・発信(A) 地域貢献活動(A) ○小中一貫教育(A)…「子どもの育ちをつなぐ」(A) ●学校関係者評価(A) 「学校生活が楽しい」と、大多数の生徒が感じているのは素晴らしい。頑張れるのは、親の愛情や教職員の生徒一人ひとりへの支援が、生徒の心に届いているからでしょう。	中期 的 目 標 ○朝読書100%達成 ○生徒の主体性の育成を意識したかわり ○楽しい教育活動 ○「良さ・好き」を伸ばす支援 ○学園研究「学び合い」が充実し、生徒同士がつながり合う授業づくり ○家庭・地域とともにある学校づくりの推進
----------------	---	--	--

評価項目(指導力点)	指標：到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
主体的な学びの向上 ○自ら学ぼうとする 態度の育成 ○「学び合い」授業 ・生徒がつながる ・生徒が気づく ・生徒が答えを導く	学校生活が楽しく充実している(80%)	1学期89%、2学期90.6%	A	A	学校における朝読書や学習への生徒の取組は大変素晴らしい。朝読書は8時20分になれば静かに始まっている。継続してもらいたい。 自分の思いを伝える力をつけるためにも様々な機会を設定していく。また、話すことが苦手な生徒へのフォローを行う。 少数の否定的な回答をしていることどもへの見守りと配慮の継続を強く願う。 ※指標2・4は、アンケート結果をもとに生徒の実態を議論した結果である。
	授業で自分の考えを伝えている(80%)	1学期70%、2学期75.9% 先生や友達の話や意見を聞いている95%以上 学園研究「学び合い」の成果とを感じる。	A		
	朝読書に自ら取り組む(100%)	年間を通じて約90%の生徒が朝読書で自ら席につき、自ら選んだ本を読んでいる。「始めなさい」や「チャイムがなった」という教師の声はない。	A		
	自分の興味関心を自ら探究する(50%)	やる気をもって取り組む1学期91%、2学期89% 家庭学習を計画的に行う1学期57%、2学期70.1%	B		
豊かな心の育成 ○良いと思うことを 自ら進んで行う生徒 の育成	良いと思うことを自ら実践する(80%)	清掃活動1学期89%、2学期92% あいさつ1学期94%、94.9%	A	B	自分の良いところを書き出すなどの活動をしてみてはどうか。 自分をより高めようとする姿が折々と見受けられる。自分の良いところを自覚し、伸ばし、明るい未来に向けて励んでもらいたい。 学習も大切だけれど、人間として生きていく上では人とのつながりが大切である。より良い関係を築くための学びをしてほしい。
	人の思いや考えをうけとめる(80%)	道徳授業で深く考え、生活に活かそうとしている 1学期86%、2学期93.4% 自分には良いところがある 1学期73%、2学期81%	B		
	思いやりの気持ちをもって行動する	他人を気遣う優しい声かけや、行動を見かける。さらに増え、温かい雰囲気を醸成する。	A		
	自分の考えや悩みを自ら解決しようとする	個々によって悩みは違っており、個々に寄り添い、つけていかなければならない力であると認識する。	A		
健やかな身体の育成 ○夢や目標をもち、 近づこうとする態度 の育成 ○仲間の頑張りを支え、 讃える生徒の育成	学級、学校、地域に役に立とうとする(80%)	学級活動に真面目に取り組む1、2学期97%	A	A	生徒会活動の取組が活発に行われていることがよくわかる。次年度の執行部も非常に期待できる。 生き生きと学校生活を楽しんでいる。 生徒と職員が互いに親密でリスペクトする関係ができています。さらに保護者と先生がわが子の将来に向けて語り合ってほしい。 PTAにあった研修の機会の再構築を期待する。
	体育的活動および文化的活動において互いに励まし、努力し、目標に近づこうとする。(100%)	生徒による主体的な体育祭、文化祭や球技大会開催 生徒は充実した取り組みであったと述べている。	A		
	学級活動、部活動、生徒会活動が充実している。(100%)	部活動に主体的に取り組む1学期90%、2学期94%	A		
地域に開かれた 学校づくり 小中一貫教育の 充実・発展	保護者や地域の方々の教育活動への参画	多くの保護者、地域の方々による教育活動の参画があった。	A	A	学校の課題を整理し、地域と共にその解決策を考え、取組が進めていけるように考えたい。次年度の学運協で熟議をする。そして、保護者も地域の多く学校へ向かう方策を考える。 下級生の世話をするのが、自分の成長につながることを生徒に実感してほしい。 生徒が学校での活動を家庭で話し、保護者の参加が増えるといい。
	地域の方との活動が楽しい(80%)	学校や地域に役立つために取り組む1、2学期100%	A		
	異学年交流が楽しい(100%)	小学生との活動はやりがいや楽しみがある1学期76% 2学期75.9% 多くの新しい取り組みに成果がある。	A		

学校 関係 者 評 価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	雪の日の早朝、通学路の歩道を雪かきをしている最中、通りかかった中学生が「手伝いましょうか」と声をかけてくれた。こんな生徒が高中にいるのだと、その日一日心地よく過ごせた。 全体的な人権意識の高まりを感じながらも、少しの暴言に日々耐え難い思いの生徒がいるかもしれないことを意識し、丁寧なかかわりと豊かな投げかけ、見守り、寄り添いを期待したい。 他学年や小学生との交流により、生き生きとしている様子がうかがえる。第二ステージの高島マルシェの取り組みはとても楽しかったのも、もっと保護者や地域の方々がたくさん参加できるように呼びかけたい。このような交流を増やしつながりを大切にしてほしい。その中で学べることは無限にありそう。 年間5回の学校運営協議会の中で生徒の活動が見える機会と熟議する機会をうまく設定していただきたい。	A	さらなる主体性を育むために、生徒を大人の会議の中に参加をさせる。学校運営協議会の会議においても、早い段階で「理想的な学校や地域のあり方」を熟議する機会の設定を行うよう計画する。 常より人権感覚の高揚を目指しているが、日常生活の中で人を傷つけてしまう言動や行動がないわけではない。残念ながら気づいていない所で悲しい思いをさせてしまうことが起きているということを教職員が受けとめ、私たち自身の感覚を研ぎ澄ませ、子どもたちにかかわっていききたいと考える。 教育活動の面白化(魅力ある教育活動)をもっともっと図っていく。子どもたちが学校へ行くことが楽しみになることをどんどん設定する。また、「出る杭を伸ばす」教育を展開し、個々の生徒が持つ独特の力を伸ばす取り組みを行う。 高島学園は小中一貫教育とコミュニティスクールの充実が最も重要な課題である。固定化した人間関係とよく言われるが、逆に言えば、お互いが深く知り合っており、より良い信頼関係を築いていると言える。その良さを十分に伸ばし、地域と保護者より豊かな教育活動を展開する。

4段階評価(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

高島市立湖西中学校

中期的目標

- ☐豊かな心を育み、認め合い、支え合い、共に成長する集団の育成
- ☐学んだことも地域社会の中で生かす社会性の伸長(学而事人)
- ☐社会的規範が身に付いた生徒の育成
- ☐学校や地域に誇りがもてる教育活動の展開
- ☐授業で活動の質を高め、自ら道路を切り拓く学力の育成

[illegible]

19